

序 文

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 18 年 4 月 1 日に設立された。この間の日本の動きを見ると、国の借金は 800 兆円が 1000 兆円に、高齢化率は 20% そこそこであったものが 27% に届こうとしている。歴代の首相の顔ぶれを見ると、小泉元首相に始まり、今の安倍首相まで実に 8 人目である。このように、政治が安定していないことも含めて、この国はかなり厳しい局面を迎えつつあることが分かる。

この 10 年間の日本を振り返ると歴史的政権交代や東京五輪開催決定など、様々な出来事があった。それらの中で、観測史上最大規模であるマグニチュード 9.0 の東日本大震災の発生は特筆すべき出来事の一つである。巨大津波が三陸沿岸一帯をのみ込み、2 万人近い人が犠牲となった。また、福島第一原子力発電所は全電源喪失により核燃料がメルトダウンするという惨劇に見舞われた。

日本は千年に一度の大規模地震の発生期に入り、また、地球温暖化に伴う異常気象による大規模な気象災害も頻発してきている。国力が衰えた日本を滅ぼすほどの被害をもたらすと想定される南海トラフ巨大地震も首都直下型地震も発生が秒読み段階に入っていると言って過言ではない。国を挙げての防災への取り組みが求められている。

ここで、簡単に防災情報研究センターの 10 年を振り返っておく。まず、寄附講座であるが、平成 21 年 10 月から平成 26 年 3 月まで四国建設弘済会による「東南海・南海地震研究部門」を、平成 26 年 4 月から松山市(松山市都市再生協議会)による「松山アーバンデザイン研究部門」を設置している。これらの寄附講座の活動により、愛媛県並びに四国地域の南海トラフ巨大地震への対応や松山市の中心市街地や道後温泉の活性化への取組みに大いなる成果を上げてきている。

また、防災に関わる人材育成への取り組みとしては以下のようなプログラムを開講している。まず、平成 25 年度から文部科学省の「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」に「地域ニーズに応えるインフラ再生技術者育成のためのカリキュラム設計」が採択され、毎年 20 名を超えるメンテナンスエキスパート技術者(ME)の養成とカリキュラム構築に取り組んでいる。それとともに、地域防災力向上のリーダーの育成にも組織的に取り組んでおり、松山市消防局と連携した防災士養成講座では、毎年 400 名の防災士を育成している。また、松山市内 4 大学の学生を対象とした実践的學生防災リーダー育成プログラムでは、今年度から毎年 200 名の学生防災士を養成し、地区防災計画の策定などで実践力を身に付けさせる予定である。

さらに、アジア圏の災害調査や防災研究連携にも力を入れている。特に、昨年は、2015 ネパール・ゴルカ地震の被害調査を精力的に進めた。この調査研究推進のために、関係機関・諸氏から多くの賛助寄付金を頂いた。その寄付金によりカトマンズ市に地震復興に向けた学術拠点である「愛媛大学ネパール地震復興デザインセンター」を開設できた。寄付に賛同いただいた関係各位に心より感謝申し上げる次第である。

以上、見てきたように、日本は大規模自然災害の多発期にある。そのため、今まで以上に防災への真剣な取り組みが求められる。愛媛大学防災情報研究センターも微力ながら地域防災力向上のために活動している。本報告書に昨年 1 年間の活動成果をまとめている。本報告書を手にする方々が、本センターの活動に協力頂ければ幸いである。

2016 年 5 月 26 日

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部龍一

愛媛大学防災情報研究センター一年報 目次

序文

目次

1. 研究組織及び研究スタッフ	1
2. 活動状況	
2.1 平成 26 年度活動報告会	9
2.2 愛媛地域防災力研究連携協議会	11
2.3 災害現地調査・調査報告会	13
2.4 防災キャラバン, 防災セミナー	21
2.5 四国防災八十八話研究会	24
2.6 アーバンデザイン研究部門	25
2.7 防災士養成講座	28
2.8 社会基盤メンテナンスエキスパート (ME) 養成講座	30
2.9 西日本高速道路 (株) 四国支社との平成 27 年度連携推進会議	37
2.10 その他の講演会等	38
2.11 防災情報研究センターニュース (メールマガジン)	40
3. センターが受け入れた研究活動	41
4. センター教員による研究・地域貢献活動	45
5. 管理・運営	
5.1 運営委員会議事録	74
5.2 外部評価委員会議事録	78
6. 規程等	80

1. 研究組織および研究スタッフ

センター長、副センター長のもとに、6つの研究部門（災害救急医療・ケア研究部門，地域防災システム研究部門，社会基盤整備部門，アジア・地域防災情報ネットワーク部門，南海トラフ巨大地震研究部門，アーバンデザイン研究部門）を置く。下記に，平成27年度の研究スタッフを示す。センター長，副センター長の他，センター所属の教員が20名，客員教授・准教授が12名，客員研究員が4名，並びにセンター活動を支援していただく協力教員6名で構成されている。

センター長

氏名 矢田部 龍一 [YATABE Ryuichi]
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役職 教授
専門 地盤工学
最終学歴 1979.3 京都大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻 修了

副センター長

氏名 竹田 正彦 [TAKEDA Masahiko]
所属 防災情報研究センター
役職 教授
専門 河川工学，災害復旧制度
最終学歴 1991.3 名古屋大学工学研究科土木工学専攻博士前期課程 修了

氏名 吉井 稔雄 [YOSHII Toshio]
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役職 教授
専門 交通工学
最終学歴 1994.3 東京大学大学院工学系研究科修士課程土木工学専攻 修了

<災害救急医療・ケア研究部門>

地域の関係機関との連携を考慮した災害発生時の救急医療・ヘルスケア体制及び搬送支援体制の構築・情報共有に関する調査・研究を行い、心的ケアを含む実践的な災害医療の教材を開発する。

部門長

氏名 相引 眞幸 [AIBIKI Mayuki]
所属 大学院医学系研究科医学専攻
役職 教授, 附属病院副院長 (医療再生・災害危機管理担当)
専門 救急医学, 重症患者管理学
最終学歴 1978.3 金沢医科大学医学部医学科 卒業

氏名 木村 映善 [KIMURA Eizen]
所属 大学院医学系研究科医学専攻
役職 准教授
専門 医療情報学, 医療社会学, 看護情報学, 医用工学
最終学歴 2003.3 愛媛大学大学院医学研究科生体機能博士課程 修了

氏名 加藤 匡宏 [KATO Tadahiro]
所属 教育学部附属教育実践総合センター
役職 准教授
専門 産業保健領域における人間工学の視点からみた労働安全器具の開発および安全, 安心町づくり
最終学歴 1990.3 広島大学大学院医学系研究科社会医学系博士課程 修了

<地域防災システム研究部門>

自然災害発生メカニズムや対策技術を研究し、発生した災害実態や気象・地質・構築物などの地域特性を調査する。それらの調査・研究を通して得られた知見・知識を蓄積する。

部門長

氏名 松尾 芳雄 [MATSUO Yoshio]
所属 農学部生物資源学科
役職 教授
専門 地域計画情報学・農村計画学
最終学歴 1980.3 京都大学大学院農学研究科農業工学専攻後期博士課程研究指導認定

氏名 小林 範之 [KOBAYASHI Noriyuki]
所属 農学部生物資源学科
役職 教授
専門 地盤工学
最終学歴 1991.3 京都大学大学院農学研究科農業工学修士課程 修了

<社会基盤整備部門>

国土保全という視点に加え，災害に強い都市計画，避難支援技術，復旧・事業継続のためのリスク評価と機能維持計画など防災・減災という視点や環境・景観保全の視点からの社会資本整備技術を開発・展開する。

部門長

氏 名 吉井 稔雄 [YOSHII Toshio]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 教授
専 門 交通工学
最 終 学 歴 1994.3 東京大学大学院工学系研究科修士課程土木工学専攻 修了

氏 名 山下 祐一 [YAMASHITA Yuichi]
所 属 防災情報研究センター
役 職 教授
専 門 防災工学
最 終 学 歴 1999.3 愛媛大学大学院理工学研究科博士課程 修了

氏 名 森脇 亮 [MORIWAKI Ryo]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 教授
専 門 気象学・水文学
最 終 学 歴 1996.3 東京工業大学工学部土木工学科 卒業

氏 名 門田 章宏 [KADOTA Akihiro]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 准教授
専 門 河川工学
最 終 学 歴 1997.3 京都大学大学院工学研究科博士課程環境地球工学専攻 単位取得認定退学

氏 名 全 邦釘 [CHUN Pang-jo]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 助教
専 門 橋梁工学・維持管理工学・構造力学・鋼構造学・画像解析学
最 終 学 歴 2010.5 Wayne State University, Graduate School, Department of Civil and Environmental Engineering 博士課程 修了

<アジア・地域防災情報ネットワーク部門>

地域の視点からの防災・災害対応に関する自然科学・人文社会面の教材の開発，災害時のライフラインや医療に関する基盤情報ネットワーク構築に関する調査・研究を行う。その成果を用いて地域の教育・啓蒙を行い，さらにアジア各地域に重点的に展開する。

部門長

氏 名 榊原 正幸 [SAKAKIBARA Masayuki]
所 属 大学院理工学研究科数理物質科学専攻
役 職 教授
専 門 地球環境学，地質学，岩石学，応用地球科学
最 終 学 歴 1987.9 北海道大学大学院理学研究科地質学鉱物学博士後期課程 修了

氏 名 二神 透 [FUTAGAMI Tohru]
所 属 防災情報研究センター
役 職 准教授
専 門 都市防災計画，地震火災シミュレータ，避難シミュレータ，救急情報工学，土木計画学，
中山間地防災計画，住民参加，合意形成
最 終 学 歴 1990.3 金沢大学大学院自然科学研究科システム科学博士課程 修了

氏 名 バンダリ ネットラ プラカシュ [BHANDARY Netra Prakash]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 准教授
専 門 地盤防災
最 終 学 歴 2003.3 愛媛大学大学院理工学研究科理工学研究科生産工学博士後期課程 修了

<南海トラフ巨大地震研究部門>

南海トラフ巨大地震に備えて，防災教育，避難行動，業務継続，防災 GIS，自主防災活動に関する研究を重点的に展開する。

部門長

氏 名 竹田 正彦 [TAKEDA Masahiko]
所 属 防災情報研究センター
役 職 教授・副センター長
専 門 河川工学，災害復旧制度
最 終 学 歴 1991.3 名古屋大学工学研究科土木工学専攻博士前期課程 修了

氏 名 岡村 未対 [OKAMURA Mitsu]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 教授
専 門 地盤工学

最終学歴 1993.3 東京工業大学大学院理工学研究科土木工学博士課程 修了

氏名 森 伸一郎 [MORI Shinichiro]
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役職 准教授
専門 地震工学, 地震地盤工学, 防災工学
最終学歴 1980.3 京都大学工学部土木工学科 卒業

<アーバンデザイン研究部門>

公・民・学が連携して, 都市デザインとまちづくりに関する調査研究から実践, さらには学習・教育を行い, まちづくりの担い手を育成する。

部門長

氏名 曲田 清維 [MAGATA Kiyotada]
所属 防災情報研究センター
役職 教授
専門 住居学, 建築計画, 都市計画
最終学歴 1978 大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程 中退

氏名 松本 啓治 [MATSUMOTO Keiji]
所属 防災情報研究センター
役職 教授
専門 まちづくり
最終学歴 1972.3 愛媛大学農学部農業工学科 卒業

氏名 千代田 憲子 [CHIYODA Noriko]
所属 教育学部
役職 教授
専門 デザイン, パブリックデザイン(街路景観), テキスタイル造形
最終学歴 2003.3 九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科生活環境専攻博士後期課程 修了

氏名 松村 暢彦 [MATSUMURA Nobuhiko]
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役職 教授
専門 地域デザイン
最終学歴 1995.3 大阪大学工学研究科土木工学専攻博士後期課程 中退

氏名 羽鳥 剛史 [HATORI Tsuyoshi]
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役職 准教授

専 門 社会マネジメント
最終学歴 2006.3 京都大学工学研究科都市社会工学専攻博士課程 修了

氏 名 片岡 由香 [KATAOKA Yuka]
所 属 防災情報研究センター
役 職 助教
専 門 景観デザイン
最終学歴 2013.3 京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻博士後期課程 修了

【客員教授】

氏 名 高橋 治郎 [TAKAHASHI Jiro]
所 属 防災情報研究センター 教授
専 門 構造地質, 防災地質

氏 名 羽藤 英二 [HATO Eiji]
所 属 東京大学大学院工学研究科 教授
専 門 交通工学, 都市空間工学, 都市交通計画, 風景づくり

氏 名 木下 誠也 [KINOSHITA Seiya]
所 属 日本大学生産工学部土木工学科 教授
専 門 建設マネジメント, 国土マネジメント, 河川・水資源の計画・管理, 防災

氏 名 廣田 清治 [HIROTA Kiyoharu]
所 属 防災情報研究センター 教授
専 門 地質工学

氏 名 鳥居 謙一 [TORII Kenichi]
所 属 国土技術政策総合研究所 河川研究部 部長
専 門 海岸工学, 防災工学

氏 名 三浦 真紀 [MIURA Masanori]
所 属 国土交通省四国地方整備局 局長
専 門 防災行政

氏 名 新階 寛恭 [SHINGAI Hiroyasu]
所 属 国土交通省国土技術政策総合研究所都市研究部都市施設研究室 室長
専 門 都市計画, 都市交通

氏 名 岡田 清隆 [OKADA Kiyotaka]
所 属 愛媛県防災安全統括部 部長

専 門 防災行政

氏 名 頼木 清隆 [YORIKI Kiyotaka]

所 属 愛媛県土木部 部長

専 門 土木行政

氏 名 右城 猛 [USHIRO Takeshi]

所 属 株式会社第一コンサルタンツ 代表取締役社長

専 門 擁壁設計, 落石対策

氏 名 MADHAV Kumar Nepal

所 属 ネパール制憲議会議員 憲法策定委員会委員長

専 門 ヒマラヤ環境学, 開発政治学

【客員准教授】

氏 名 DAHAL Ranjan Kumar

所 属 理工学研究科 客員研究員 (ネパール トリブバン大学 講師)

専 門 応用地質学, 地すべり防災学

【客員研究員】

氏 名 TULADHAR Gangalal

所 属 ヒマラヤ保全会 会長

専 門 防災教育, ヒマラヤ環境学, 開発政治学

氏 名 石飛 直彦

所 属 復建調査設計株式会社 松山支店 技術課長

専 門 まちづくり, 社会実験調査

氏 名 泉谷 昇

所 属 NPO 法人いよココロザシ大学 理事長・学長

専 門 まちづくり, 社会実験調査

氏 名 西村 正

所 属 復建調査設計株式会社 経営管理本部 社会デザイン創発センター 理事

専 門 まちづくり, 社会実験調査

【協力教員】

法 文 学 部 : 寺内 浩 (協力分野 : 古文書調査, 歴史研究)

理工学研究科 : 小林 真也 (協力分野 : 災害時の情報伝達)

理工学研究科 : 井内 國光 (協力分野 : 濁水被害, 水資源システム, 地球温暖化, 地盤沈下,

理工学研究科：倉内 慎也 (協力分野：防災計画)
理工学研究科：木下 尚樹 (協力分野：土砂災害, 大規模崩壊)
理工学研究科：安原 英明 (協力分野：渇水災害, 水資源システム, 土砂災害, 地すべり,
大規模崩壊)

2. 活動状況

2.1 平成 26 年度活動報告会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 27 年 5 月 26 日（火）14 時から愛媛大学南加記念ホールにおいて、平成 26 年度の活動報告会を開催しました。二神准教授の司会のもと、240 名の参加者で会場が埋め尽くされる中、矢田部センター長の開会挨拶で報告会が始まりました。

講演では、元四国地方整備局企画部長の国土地理院長小池氏より「大規模災害に即応する国土地理院の備え」と題して、平常時から災害時まで、地理空間情報の整備、提供を通して国土地理院が災害対応に様々な場面で重要な役割を果たしていることが紹介されました。

続いて、四国地方整備局総括防災調整官林氏より「四国における昨年の災害と本年度の南海トラフ地震対策」と題して南海トラフ巨大地震を中心とする国土交通省の防災対策の対応状況について紹介があり、平成 26 年 8 月の台風 11 号、12 号災害、そして平成 26 年 12 月に発生した豪雪災害への対応について報告がありました。国の組織力を活かした広域応援対応が大規模災害に有効であることが示されました。

最後に、竹田副センター長、松本教授より平成 26 年度の活動報告が実施されました。

竹田副センター長からは、センター発足から 10 年目を迎える活動の経緯が紹介され、自助・共助・公助のバランスを図りながら防災・減災の取り組みを地域に根ざした活動として展開していくことが示されました。

松本教授からは、松山市の中心市街地が将来にわたって活力ある拠点として発展するために必要な人材育成、まちづくりに取り組んでいる状況が紹介されました。

閉会にあたり吉井副センター長から報告会の振り返りと、これから益々重要となる、防災、まちづくりに必要な社会人技術者の養成に取り組んでいくことが示され、閉会となりました。

報告会に足を運んで頂いた皆様に感謝申し上げるとともに、報告会を通してセンターの活動内容が広く地域、住民に浸透し、地域防災力の向上に貢献できることを期待するものです。

日 時：平成 27 年 5 月 26 日(火) 14:00~16:00

場 所：愛媛大学南加記念ホール

参加者：224 名

プログラム：

開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

講演 I「大規模災害に即応する国土地理院の備え」

国土交通省 国土地理院長 小池 剛 氏

講演 II「四国における昨年の災害と本年度の南海トラフ地震対策」

四国地方整備局 総括防災調整官 林 重延 氏

平成 26 年度防災情報研究センター活動報告

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦

(アーバンデザイン研究部門)

閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター 教授 松本 啓治
愛媛大学防災情報研究センター副センター長 吉井 稔雄



矢田部センター長の挨拶



竹田副センター長の講演

2.2 愛媛地域防災力研究連携協議会

2.2.1 愛媛地域防災力研究連携協議会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成27年5月26日(火)13時から愛媛大学校友会館2階サロンにおいて、愛媛地域防災力研究連携協議会を開催し、愛媛県、愛媛県教育委員会、愛媛県内市町、松山市気象台等の危機管理担当19名の参加を得て開催されました。なお、この協議会は、委員相互が連携し、国の機関の協力を得ながら、地域防災力に関する調査・研究、情報交換を行うことをもって、愛媛県における地域防災力の向上に寄与することを目的に協議しているものです。開会にあたり、矢田部センター長から協議会の協力を得て、防災フォーラムや防災キャラバンが、すべての20市町で実施することで、愛媛県内の首長等の危機管理意識が高まったことは、評価できる。協議会の皆様に感謝申し上げるとともに、今後は地域レベルの防災啓発に力を入れていきたいとの挨拶があった。

引き続き、竹田副センター長から災害対応に関するヒアリングを7市8町で実施した結果の報告、今後の協議会の進め方等の意見交換が行われた。

日 時：平成27年5月26日（火） 13：00～14：00

場 所：愛媛大学校友会館2階 サロン

参加者：19名

プログラム：

- 1.開会挨拶
- 2.市町ヒアリングの結果説明
- 3.今後の協議会の進め方について
- 4.意見交換
- 5.閉会挨拶



会議風景

2.2.2 愛媛地域防災力研究連携協議会 規約

(名称)

第1条 この協議会は、愛媛地域防災力研究連携協議会（以下「本協議会」という）と称する。

(目的)

第2条 本協議会は、愛媛大学防災情報研究センター、愛媛県、愛媛県教育委員会、愛媛県内市町が連携し、国の機関の協力を得ながら、地域防災力に関する調査・研究、情報交換を行うことをもって、愛媛県における地域防災力の向上に寄与することを目的とする。

(構成)

第3条 本協議会は、別表-1に掲げる委員をもって構成する。

2 本協議会には、会長および副会長2名を置く。

3 会長および副会長の任期は、3年とする。

(選任)

第4条 会長は、愛媛大学防災情報研究センター長をもって充てる。

2 副会長は、別表-1の第4号委員の中から会長が指名する。

(職務)

第5条 会長は、本協議会を代表して会務を処理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があった場合、会長に代わり会務を処理する。

(招集)

第6条 本協議会は、会長が招集する。

(研究会)

第7条 地域防災力向上の課題を解決するため、調査・研究・情報交換活動を行う別表-2に掲げる研究会を設置する。

2 研究会は、委員の推薦する者で構成する。

3 研究会の活動期間は、3年とする。ただし、継続を妨げない。

(えひめ防災フォーラム)

第8条 県民の防災意識の啓発ならびに研究会活動の成果報告のため「えひめ防災フォーラム」を毎年8月下旬に開催する。

(事務局)

第9条 事務局を、愛媛大学防災情報研究センター内に置く。

別表-1

第1号委員 (大学関係)

愛媛大学防災情報研究センター長

第2号委員 (国関係)

国土交通省四国地方整備局企画部長， 気象庁松山地方気象台長

第3号委員 (県関係)

愛媛県県民環境部長， 愛媛県土木部長， 愛媛県教育委員会副教育長

第4号委員 (市町関係)

松山市長， 今治市長， 宇和島市長， 八幡浜市長， 新居浜市長， 西条市長， 大洲市長， 伊予市長， 四国中央市長， 西予市長， 東温市長， 上島町長， 久万高原町長， 松前町長， 砥部町長， 内子町長， 伊方町長， 松野町長， 鬼北町長， 愛南町長

別表-2

避難問題研究会， 自主防災研究会， 防災教育研究会， 自治体業務継続計画研究会， 防災 GIS 研究会

2.3 災害現地調査・調査報告会

2.3.1 ネパール地震被害調査報告会（速報）

2015年4月25日11時56分に、カトマンズ北西80km、深さ15kmを震源としてマグニチュード7.8の大地震が発生しました。この地震で建物倒壊、斜面崩壊、なだれなどが発生し、4月30日時点での死者数は5千人を超えています。また、多くの世界文化遺産が倒壊しています。

愛媛大学はネパールと交流が深く、多数のネパール人留学生を育てるとともに、ネパールの自然災害研究に多大な成果を出してきています。そこで、いち早くネパール地震の被害調査団を派遣しました。

5月18日（月）16時30分から、愛媛大学防災情報研究センター主催で、「ネパール地震被害調査報告会」を開催しました。報告会には、一般市民、企業関係者、留学生、学生ら240名の参加がありました。

報告会では、5月1日～8日にかけてネパール地震被害調査を行った防災情報研究センターの4名の教員が被害状況等の報告を行いました。まず、ネトラ准教授が、ネパールは世界的に見ても極めて地震活動が活発な地域の一つであり、周期的に大地震が発生していること、今後20年程度でマグニチュード8.0を超える巨大地震が発生する可能性が高いことなどを報告しました。

また、森准教授は、震度は4から5強程度（日本の気象庁震度階）であったこと、カトマンズ市内で建物の被害調査を行った結果、約800棟の内、90%はほぼ無被害、5%程度が倒壊や大破であったこと、また、集中的に重度な被害がある地区があり、地盤との関連が強いことなどを報告しました。そして、今後、日本から復興支援が必要であると訴えました。

次いで、岡村教授は、カトマンズ盆地の少なくとも5か所で液状化現象が確認されたこと、今回の地震動は加速度が小さく繰り返し回数も少なかったため地盤災害は軽微であったが、予想される将来の地震への備えのために、今回の調査結果と追加調査により、精度の高い液状化予測マップを作成することが喫緊の課題であると指摘しました。

最後に、矢田部センター長が、これまでの愛媛大学のネパールにおける防災研究の取り組み状況を説明しました。そして、今回の地震発生に際して、次に予想される大規模地震に備えた復興計画が必要であること、そのためには徹底的な地震被害調査と防災教育などの実施に向けた復興デザインスタジオ拠点を早急に設置する必要があるため地震被害復興調査寄付金制度を立ち上げたことなどを報告しました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

共 催：地盤工学会四国支部

日 時：平成27年5月18日（月） 16：30～18：00

場 所：愛媛大学南加記念ホール

参加者：240名

プログラム：

開会

ネパールヒマラヤ地域における地震活動および 2015 ゴルガ地震の概要

愛媛大学大学院理工学研究科 准教授 ネットラ・プラカシュ・バンダリ

建物被害の概要

愛媛大学大学院理工学研究科 准教授 森 伸一郎

カトマンズ市内の地盤変状

愛媛大学大学院理工学研究科 教授 岡村 未対

ネパールの事前防災と復興研究に向けた愛媛大学の取り組み

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

閉会



矢田部教授の講演



森准教授の講演

2.3.2 ネパール地震被害調査報告会（第2回）

7月7日（火）13時30分から、愛媛大学防災情報研究センター主催で、「ネパール地震被害調査報告会」（第2回）を開催しました。報告会には、一般市民、企業関係者、留学生、学生ら45名の参加がありました。

報告会では、まず、矢田部センター長から、6月25日にカトマンズにネパール地震復興デザインセンターを設置し、今後、現地調査や防災教育推進の拠点として活用していく計画であるとの報告がありました。

引き続き、愛媛大学医学部非常勤講師の前川氏によるネパール地震国際緊急援助隊医療者が見たネパール地震災害と題した講演がなされました。ネパールでは被災により地域医療機関の診療機能が低下したこともあり、日本の医療隊が大歓迎されたとのことでした。なお、今回は手術室を確保することができたことにより、手術で命が助かったり、障害が残ったりする人が多少でも少なくなったのではないかと報告がなされました。

最後に、ネパール出身であるネトラ准教授からネパール地震による山間地の斜面災害と題した講演があり、雨期に入ると斜面が崩壊する恐れがあることを指摘されました。今後も引き続き、現地で行った調査の分析を行い、今後のネパールにおける防災対策を研究していきたいとのことでした。

主 催： 愛媛大学防災情報研究センター
後 援： 地盤工学会四国支部
日 時： 平成 27 年 7 月 7 日(火) 13:30～15:10
会 場： 愛媛大学校友会館 2 階サロン
参加者： 45 名



矢田部教授の講演

プログラム：

開会

ネパール地震復興調査研究寄付金によるネパール地震復興への活動

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

ネパール地震国際緊急援助隊医療者が見たネパール地震災害

愛媛大学医学部非常勤講師 前川 聡一

ネパール地震による山間地の斜面災害

愛媛大学防災情報研究センター 准教授 ネットラ・プラカシュ・バンダリ

閉会

2.3.3 ネパール地震被害調査報告会（第3回）

9月28日（月）15時00分から、愛媛大学防災情報研究センター主催で、「ネパール地震被害調査報告会」（第3回）を開催しました。報告会には、行政担当者、一般市民、留学生、学生ら26名の参加がありました。

報告会では、まず、ネパール国立トリブバン大学准教授であり、当センターの客員准教授の Dahal Ranjan Kumar 氏より、地震発生から5箇月後の状況について報告がありました。また、Dahal Ranjan Kumar 氏はトリブバン大学の地すべり部門長でもあり、今回の地震について地質エンジニアリングから見たゴルカ地震の分析結果（中間報告）を報告しました。

最後に、ネパール出身であるネトラ准教授からネパール地震から5ヶ月～復旧状況～と題した講演があ



Dahal Ranjan Kumar 准教授の講演

りました。今後も引き続き、現地で行った調査の分析を行い、今後のネパールにおける防災対策を研究していきたいとのことでした。

主 催： 愛媛大学防災情報研究センター
後 援： 地盤工学会四国支部
日 時： 平成 27 年 9 月 28 日（月） 15：00～17：00
会 場： 愛媛大学社会連携推進機構 2 階 研修室
参加者： 26 名
プログラム：

「Engineering Geological Consequences of Gorkha Earthquake
～ Preliminary Understanding ～」

ネパール国立トリブバン大学准教授・地盤防災研究センター地すべり部門長
愛媛大学防災情報研究センター 客員准教授 Dahal Ranjan Kumar

「ネパール地震から 5 ヶ月 ～復旧状況～」

愛媛大学防災情報研究センター 准教授 ネットラ・プラカシュ・バンダリ

2.3.4 ネパール地震被害調査報告会（第 4 回）

11 月 5 日（木）13 時 30 分から、愛媛大学防災情報研究センター主催で、「ネパール地震被害調査報告会」（第 4 回）を開催しました。報告会には、行政担当者、企業、一般市民、留学生、学生ら 21 名の参加がありました。

報告会では、矢田部センター長から 2015 ネパール地震復興調査研究寄付金に関する中間報告と復興調査活動の展開について報告しました。

また、愛媛県下で医療・福祉・介護施設関連事業を運営している北辰会グループボランティア有志「チームほくしん」のご厚意によるネパール地震復興調査研究寄付金の贈呈式を実施しました。

最後に、ネットラ准教授からネパール地震の被害の概要及び復興に向けた 6 ヶ月間の関係機関の動き等について、現地の写真を多数交えながら報告がありました。



贈呈式の様子

主 催： 愛媛大学防災情報研究センター
後 援： 地盤工学会四国支部
日 時： 平成 27 年 11 月 5 日（木） 13：30～15：00
会 場： 愛媛大学社会連携推進機構 2 階 研修室
参加者： 21 名

プログラム：

「2015 ネパール地震復興調査研究寄付金について」

①寄付金に関する中間報告と復興調査活動の展開

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部龍一

②寄付金贈呈式

北辰会グループボランティア有志「チームほくしん」

「ネパール・ゴルカ地震の被害の概要と復興状況について」

愛媛大学防災情報研究センター 准教授 ネットラ・プラカシュ・バンダリ

2.3.5 ネパール地震被害調査報告会（第5回）

1月20日（水）15時40分から、愛媛大学防災情報研究センター主催で、「ネパール地震被害調査報告会」（第5回）を開催しました。報告会には、行政担当者、企業、一般市民ら38名の参加がありました。

報告会では、矢田部センター長から「2015 ネパール地震復興調査研究寄付金に関する中間報告と復興調査活動の展開」と題して講演し、今回寄付金にご協力いただいた27の機関・団体ならびに個人に感謝状を贈呈しました。

また、ネットラ准教授から「ネパール・ゴルカ地震の被害概要と復興に向けた取り組み」と題して講演し、ネパールの地震復興は政治の混乱もあり、軌道に乗り出したばかりであるとの報告がありました。

愛媛大学では、今後もネパールの震被害からの復興に向けての様々な取り組みを継続していくとのことでした。



ネットラ准教授の講演

主催： 愛媛大学防災情報研究センター

後援： 地盤工学会四国支部

日時： 平成28年1月20日(水) 15:40～17:00

会場： 愛媛大学校友会館2階サロン

参加者： 38名

プログラム：

2015 ネパール地震復興調査研究寄付金に関する中間報告と復興調査活動の展開

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

寄付金賛同者への感謝状授与式

ネパール・ゴルカ地震の被害概要と復興に向けた取り組み

愛媛大学防災情報研究センター 准教授 ネットラ・プラカシュ・バンダリ

2.3.6 ネパール地震被害調査報告会（第6回）

3月12日（土）13時30分から、愛媛大学防災情報研究センター主催で、「ネパール地震被害調査報告会（第6回）」を開催しました。報告会にはネパール人やインドネシア人留学生、社会人ら15名の参加がありました。

講師の Binod Tiwari 氏は、ネパール出身で、2003年に新潟大学より博士課程の学位を授与され、現在、アメリカ・カリフォルニア州立大学フラートンの准教授です。Tiwari 氏は、地震発生直後にアメリカ土木学会関連の地震災害調査団のリーダーとして1か月間ほど調査に携わるなど、精力的に地震被害調査を行っており、有益な情報を得ることができました。

主 催： 愛媛大学防災情報研究センター

後 援： 地盤工学会四国支部

日 時： 平成28年3月12日（土） 13:30～15:00

会 場： 愛媛大学工学部2号館2階 環境建設工学科会議室(214号室)

参加者： 15名

プログラム：

2015 ネパール・ゴルカ地震の被害概要と復興計画

Binod Tiwari, Ph.D.

Associate Professor, Civil and Environmental Engineering Department,

California State University, Fullerton



Binod Tiwari 准教授の講演



集合写真

2.3.7 ネパール地震被害調査報告会（第7回）

3月18日（金）15時00分から、愛媛大学防災情報研究センター主催で、「ネパール地震被害調査報告会（第7回）」を開催しました。報告会には、ネパール人やインドネシア人留学生、社会人ら14名の参加がありました。

講師の Amod Mani Dixit 氏は、ネパール出身で、1990年以来、「NSET(ネパール地震技術会)」代表として南アジアにとどまらず世界各地において地震防災活動を展開しています。

その間、地震防災に関わる研究成果をまとめ、2014年3月に愛媛大学大学院理工学研究科より論文博士の学位を授与されています。

今回は、長年に渡るネパールにおける地震防災活動の概要と昨年4月に発生したネパール地震の教訓について講演いただき、有益な情報を得ることができました。

主催： 愛媛大学防災情報研究センター
後援： 地盤工学会四国支部
日時： 平成28年3月18日（金） 15:00～16:10
会場： 愛媛大学社会連携推進機構2階 研修室
参加者： 14名
プログラム：

ネパールにおける地震防災活動および2015年ゴルカ地震による教訓
Amod Mani Dixit, Ph.D.; Executive Director, NSET Nepal
Earthquake Disaster Risk Mitigation Activities in Nepal and Lessons from 2015 Gorkha Earthquake



Amod Mani Dixit 氏の講演



集合写真

2.3.8 鬼怒川堤防決壊災害調査報告会

9月16日（水）13時30分から、愛媛大学防災情報研究センター主催、国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所共催で、鬼怒川堤防決壊災害調査報告会を開催しました。

河川堤防研究の第一人者である大学院理工学研究科岡村教授が、茨城県常総市に大きな被害を与えた台風17号及び18号による鬼怒川で起きた堤防決壊の被害状況を調査し、鬼怒川破堤箇所調査速報と我が国の河川堤防の現状・課題について報告しました。

また、国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所松下副所長から、四国最大の流域人口を擁する重信



岡村教授の講演

川の治水対策に関して報告いただきました。

地方自治体職員、コンサルタント等企業の皆様、一般の方々など 88 名の参加をいただき、重信川の豪雨災害への備えに対して認識を新たにする場となりました。

主 催： 愛媛大学防災情報研究センター

共 催： 国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所

日 時： 平成 27 年 9 月 16 日（水） 13：30～15：00

会 場： 愛媛大学社会連携推進機構 2 階 研修室

参加者： 88 名

プログラム：

開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

「鬼怒川破堤箇所調査速報と我が国の河川堤防の現状・課題」

愛媛大学大学院理工学研究科 教授 岡村 未対

「重信川の治水対策について」

国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所 副所長 松下 越夫 氏

閉会挨拶

国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所長 横尾 和博 氏

2.3.9 台湾南部地震被害調査速報会

2月16日（火）10時30分から、愛媛大学防災情報研究センター主催で、台湾南部地震被害調査速報会を開催し、一般市民ら18名の参加がありました。

台湾南部地震を受けて、大学院理工学研究科森准教授がいち早く現地調査を行い、高層ビルの倒壊状況や液状化による被害などの現状が報告されました。



森准教授の講演

主 催： 愛媛大学防災情報研究センター

後 援： 地盤工学会四国支部

日 時： 平成 28 年 2 月 16 日（火） 10：30～11：30

会 場： 愛媛大学社会連携推進機構 2 階 研修室

参加者： 18 名

プログラム：

開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

台湾南部地震被害調査報告

愛媛大学大学院理工学研究科 准教授 森 伸一郎

2.4 防災キャラバン，防災セミナー

2.4.1 防災キャラバン in 砥部町

6月7日（日）10時30分より砥部町宮内小学校体育館において、「防災キャラバン in 砥部町」を開催しました。地域自主防災会，消防団，砥部町民ら約220名の参加がありました。

開催に先立ち，愛媛大学防災情報研究センター矢田部センター長，佐川砥部町長より，日本全体で自然災害が続いて発生しており，本日の避難訓練や防災キャラバンをきっかけに災害に備える場にしてほしいとの挨拶がありました。

引き続き，松山地方気象台藤原次長より，「大雨や台風による災害から身を守るために」と題して，気象情報の収集と適切な判断によって命を守ることができる，早めの避難が大切との講演がありました。また，愛媛大学防災情報研究センター高橋客員教授が，「愛媛県の地震被害想定と砥部町の減災」と題する講演で南海トラフ発生時には，砥部町においても少



高橋教授の講演

なからず被害が発生すること，そのため，「備えあれば憂いなし」であるので，減災に向け，地域を知る，備蓄をするなどの行動が大切であることを説明しました。最後に，砥部消防署丸橋消防副士長が，広島土砂災害現場におけるボランティア活動の経験に基づいて，普段から防災に関心を持つことの重要性や発生後も地域で助け合うことの大切さを講演しました。

愛媛大学防災情報研究センターは，各自自治体の協力をいただき，愛媛県下20市町すべてにおいて防災キャラバンを実施いたしました。今後もセンターでは，地域の防災力を向上するために，また防災に関する地域連携を深めるために各種防災講演会等を愛媛県下を中心にして，全国各地において開催いたします。

主 催： 愛媛大学防災情報研究センター，砥部町
日 時： 平成27年6月7日（日）10：30～12：00
会 場： 砥部町立宮内小学校
参加者： 220名
プログラム：

開会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一
砥部町長 佐川 秀紀 氏
講演 「大雨や台風による災害から身を守るために」 松山地方気象台次長 藤原 清 氏
「愛媛県の地震被害想定と砥部町の減災」
愛媛大学防災情報研究センター客員教授 高橋 治郎
「広島土砂災害救援活動報告」 砥部消防署 丸橋 翼 氏
土居 淳平 氏

閉会挨拶

防災キャラバン開催状況一覧：

開催市町（12市9町で開催）

No	市町名	開催日	開催場所	講師名	参加者数
1	八幡浜市	23.01.30(日)	文化会館 ゆめみかん	矢田部・高橋・松本	200名
2	松前町	23.03.19(土)	総合文化センター	矢田部・岡村・松本	120名
3	愛南町	23.04.24(日)	ホテルサンパール	鳥居・矢田部・森	330名
4	東温市	23.07.03(日)	川内公民館	矢田部センター長	470名
5	新居浜市	23.09.24(土)	市民文化センター	高橋副センター長	400名
6	西予市	23.11.03(木)	三瓶文化会館	高橋・細川・二神	150名
7	伊予市	23.12.11(日)	市民会館	矢田部・高橋	200名
8	松山市	24.03.10(土)	南加記念ホール	矢田部・森	210名
9	宇和島市	24.12.08(土)	宇和島市役所大会議室	矢田部・二神	180名
10	松野町	25.03.02(土)	松野町コミュニティセンター	矢田部・高橋	100名
11	西予市	25.03.02(土)	野村中央公民館	矢田部・高橋	180名
12	鬼北町	25.12.01(日)	近永小学校屋内運動場	矢田部・竹田	450名
13	西条市	26.01.19(日)	西条市総合文化会館	竹田・二神	500名
14	四国中央市	26.02.08(土)	土居文化ホール	矢田部・二神	100名
15	上島町	26.03.30(日)	せとうち交流館	高橋・二神	約180名
16	内子町	26.06.29(日)	スバル	竹田・二神	425名
17	伊方町	26.09.07(日)	生涯学習センター	矢田部・二神	150名
18	大洲市	26.09.28(日)	総合福祉センター	矢田部・二神	150名
19	久万高原町	26.11.25(火)	産業文化会館	竹田・二神	130名
20	今治市	26.11.30(日)	日高小学校体育館	矢田部・二神	370名
21	砥部町	27.6.7(日)	宮内小学校体育館	矢田部・高橋	250名

2.4.2 防災セミナーin四国中央市

平成27年12月26日(土)13時30分～四国中央市福祉会館4階多目的ホールにおいて市民を対象とした防災セミナーin四国中央市を開催し、四国中央市市民、自主防災会、消防関係者ら約100名の参加がありました。

講演では、これからの地域の防災計画の進め方と題して、愛媛大学防災情報研究センター二神准教授から、地区防災計画は地域が連携して事前の災害に備えることが重要であり、そのためには、自主防災会、企業、学校等が連携し、地区の減災に向けた取り組みを具体的に考え、訓練を通して、地区防災計画をより良い計画にしていくことが大切であると説明しました。

ひきつづき、大規模災害における地域での企業防災の役割についてと題して、本学防災情報研究センター竹田副センター長から大規模災害後、企業の存続が、地域の復興に大きな役割を果たしているとの

説明がありました。また、四国中央市 5 つの自主防災会から活動報告、ダイキ(株)による防災グッズの展示会があるなど盛大なセミナーとなりました。

また、愛媛大学防災リーダークラブの増田桃子さんが司会を務め、今後は地域で実施する防災訓練や防災のイベントをとおして、防災の知識・意識、そして技術を高めていきたいと豊富を述べました。

主 催： 愛媛大学防災情報研究センター，四国中央市

日 時： 平成 27 年 12 月 26 日（土）13：30～15：30

会 場： 四国中央市福祉会館 4 階 多目的ホール

参加者： 100 名

プログラム：

開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

四国中央市長 篠原 実 氏

講演

①「これからの地域の防災計画の進め方について」

愛媛大学防災情報研究センター 准教授 二神 透

②「大規模災害における地域での企業防災の役割について」

愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 竹田 正彦

自主防災会活動報告

司会 燧灘防災会 会長 大西 忍 氏

総括 愛媛大学防災情報研究センター 客員教授 高橋 治郎

防災・災害情報について

四国中央市消防本部 安全・危機管理課

閉会挨拶

四国中央市消防本部 消防長 野村 泰一 氏



二神准教授の講演

2.5 四国防災八十八話研究会

愛媛大学防災情報研究センターは、愛南町ならびに愛南町教育委員会と連携して、四国防災八十八話感想文コンクール表彰式及び作品発表会を、平成 28 年 3 月 5 日に御荘文化センターで開催しました。

厳正な審査の上、小学校の部では最優秀賞 1 編、優秀賞 2 編の 3 編が、中学校の部では最優秀賞 1 編、優秀賞 2 編の 3 編が表彰されました。受賞した児童生徒は、それぞれの作文を、保護者などの多くの参加者を前に堂々と発表しました。この子供たちが地域の将来を担う人材となり、地域防災の柱になってくれる日も近いことと期待されます。

平成 27 年度の入賞者は下記のとおりです。

最優秀賞	小学校の部	愛南町立東海小学校	6 年	岡野	七海
	中学校の部	愛南町立御荘中学校	2 年	宮崎	莉子
優秀賞	小学校の部	愛南町立長月小学校	5 年	濱本	野瑚
		愛南町立平城小学校	5 年	新谷	真央
	中学校の部	愛南町立城辺中学校	1 年	児島	兼聖
		高知県宿毛市愛媛県南宇和郡愛南町篠山小中学校組合立篠山中中学校	1 年	田中	莉央

入賞作品は、(<http://cdmir.jp/download/>) にアップしています。

2.6 アーバンデザイン研究部門

防災情報研究センターでは、松山市都市再生協議会からの寄附を受けて、平成26年度から3年間の予定で「アーバンデザイン研究部門」を設置しました。27年度の主な活動は、下記のとおりです。詳しくは、別冊「松山アーバンデザインセンター27年度年報」をご覧ください。

※「松山アーバンデザインセンター27年度年報」については、防災情報研究センターまで問合せください。

- 2015.04.09：第5回社会実験運営委員会（UDCM）
- 2015.04.11：アーバンデザインスクール中間報告会（坂の上ミュージアム）
- 2015.04.25：（一社）日本計画行政学会研修会（UDCM）
- 2015.05.11：南海ラジオ「これかラジ人」収録
- 2015.05.12：みんなの広場壁画ワークショップ（UDCM）
- 2015.05.12：歴史文化研究会
- 2015.05.26：歴史文化研究会
- 2015.06.02：歴史文化研究会
- 2015.06.05：芝浦工業大学前田英寿氏 UDCM 視察
- 2015.06.06：愛媛県技術士会講演
- 2015.06.08：三津浜地区景観まちづくり研究会（第3回）
- 2015.06.09：道後温泉懇談会
- 2015.06.16：歴史文化研究会
- 2015.06.24：若手経営者生業研究会
- 2015.06.25：坂の上の雲ミュージアム指定管理者プロポーザル
- 2015.06.30：歴史文化研究会
- 2015.07.02：UD ビジョン研究会
- 2015.07.03：草津市 UDCM 視察
- 2015.07.07：歴史文化研究会
- 2015.07.11：テレビ愛媛 UDCM 取材
- 2015.07.14：道後温泉活性化フォーラム（愛媛大学 南加ホール）
- 2015.07.14：歴史文化研究会
- 2015.07.16：広島市 UDCM 視察
- 2015.07.22：花園町 WS
- 2015.07.22：お城下まつやま文化観光委員会
- 2015.07.24：アーバンデザイン研究会（川崎京大教授：UDCM）
- 2015.07.25：花園町 WS
- 2015.07.28：松山市美しい街並みと賑わい創出事業補助金審査委員会
- 2015.07.28：歴史文化研究会
- 2015.07.29：若手経営者生業研究会
- 2015.07.29：青年会議所連携会議
- 2015.07.30：三津浜地区景観まちづくり研究会（第4回）
- 2015.08.04：歴史文化研究会
- 2015.08.05：草津市 UDCM 視察
- 2015.08.07：お化け屋敷（みんなのひろば）
- 2015.08.10：第9回社会実験運営委員会（UDCM）
- 2015.08.11：歴史文化研究会
- 2015.08.19：若手経営者生業研究会

2015.08.19 : 第 3 回交流会
2015.08.19 : 土のうプール (みんなのひろば)
2015.08.22 : 道後温泉 120 周年記念ウォーク
2015.08.25 : L 字地区再開発事業選定審査委員会
2015.08.26 : お城下まつやま文化観光委員会
2015.08.30 : 花園町 WS
2015.09.06 : 京都知恩院視察
2015.09.09 : 第 10 回社会実験運営委員会 (UDCM)
2015.09.15 : 福井大学 UDCM 視察
2015.09.16 : お城下まつやま文化観光委員会 (写真班)
2015.09.27 : 京都府宇治市視察
2015.09.28 : 姫路市視察
2015.09.29 : 京都府清水寺視察
2015.09.30 : 若手経営者生業研究会
2015.10.01 : 花園町通り戦略会議
2015.10.03 : 漱石と子規 愚陀仏庵シンポジウム協議会
2015.10.03-04 : 道後温泉湯玉マップイベント
2015.10.10 : 花園町通り WS
2015.10.18 : やさいづくり WS
2015.10.20 : 歴史文化研究会
2015.10.21 : 若手経営者生業研究会
2015.10.22 : IBM、UDCM 視察 (UDC 立ち上げ準備)
2015.10.24 : 四国地区青年技術士会講演
2015.10.27 : L 字地区再開発検討委員会打合せ (RIA、デザイン課)
2015.10.28 : お城下まつやま文化観光委員会
2015.11.05 : お城下まつやま文化観光委員会 (愛称ロード班)
2015.11.07 : 漱石が見た「坊ちゃんの」のまち探訪 (松山子規記念博物館)
2015.11.08 : シンポジウム「漱石と子規 愚蛇仏庵」(松山子規記念博物館)
2015.11.12 : 第 1 回銀天街 L 字地区再開発検討専門部会 (委員長として出席)
2015.11.14 : 都市計画学会中四国支部シンポジウムー公民学の連携のまちづくりを考える (UDCM)
2015.11.18 : 第 6 回松山市都市再生協議会
2015.11.22 : 愛媛大学 COC 公開講座 in 松山市「三津の魅力が生業を呼ぶー企業、市民、行政によるまちづくりー」(三津浜公民館、アドバイザーとして出席)
2015.11.25 : 若手経営者生業研究会
2015.11.28 : アーバンデザインスクール 1 期生 最終活動報告会+卒業式
2015.12.04 : アーバンデザインスクール第 2 期生向けガイダンス (UDCM)
2015.12.10-12 : 金沢学生のまち市民交流館の視察
2015.12.12-13 : 声優 WS
2015.12.25 : 歴史文化研究会
2016.01.09-10 : 声優 WS
2016.01.13 : 「多目的スペース・みんなのひろば」のあり方を考える WS
2016.01.14 : 草津市商工会議所 UDCM 視察
2016.01.16 : 道後鉄道 120 周年記念ウォーク 第 2 弾
2016.01.18 : 声優 WS
2016.01.21 : 高齢者大学講演

2016.01.23-24 : 声優 WS
2016.01.26-28 : 佐賀「わいわい!! コンテナ」及び福岡 UDCIC の視察
2016.01.30-31 : ラジオ音楽ドラマ収録
2016.02.03 : 道後温泉審議会
2016.02.04 : 第 2 回銀天街 L 字地区再開発検討専門部会 (委員長として出席)
2016.02.08 : デザインマネジメント WS (UDCM)
2016.02.08 : 第 4 回松山駅周辺笑顔あふれるまちづくり推進協議会 (委員長として出席)
2016.02.09 : 歴史文化研究会
2016.02.10 : 市駅前 WS
2016.02.12 : 第 4 回アーバンデザイン研究会+第 2 回アーバンビジョン研究会(西村、浅子、片岡)
2016.02.16 : 道後景観まちづくり勉強会
2016.02.18 : 香川大学 (西成教授) UDCM 視察
2016.02.20 : 松山アーバンデザインセンター・みんなのひろば フォーラム
「アーバンデザインセンターの役割と今後の展望」
2016.02.22 : 若手経営者生業研究会
2016.02.27 : 道後温泉活性化懇談会
2016.02.29 : 商店街交流会
2016.03.01 : 道後景観勉強会
2016.03.03 : 関西大学 UDCM 視察
2016.03.09 : 札幌市立大学の視察
2016.03.10 : 都市景観賞調査立会
2016.03.10 : 消費者アンケート調査結果報告
2016.03.12 : 三津浜景観まちあるき
2016.03.22 : 第 7 回都市再生協議会

2.7 防災士養成講座

愛媛大学防災情報研究センターは、松山市消防局等の協力の下、平成27年8月20日(木)～23日(日)及び10月17日(土)～18日(日)、「防災士養成講座」を松山市保健所消防合同庁舎防災センターで開催し、平日(木・金)コースと休日(土・日)コース併せて、自主防災会の皆様、企業関係者、学生など462名の参加がありました。

この講座は、防災に関する正しい知識と技能を持ち、災害時には、自助、共助の中心として地域で活躍できる防災士を養成することを目的としています。

開催に先立ち、愛媛大学防災情報研究センター矢田部龍一センター長から先日の広島豪雨災害において、多数の死者や行方不明者など悲劇的な状況となっており、想像を超えた豪雨は、今後もどこでも起こり得ることであります。自分の命は自分で守ることが基本ですが、災害弱者をいかに守るかを含め、災害の危険度を認識できる防災士(地域のリーダー)の役割は重要です。この講座において、防災に関する意識・知識・技能を高めていただき、災害時に活躍できる防災士を目指していただきたいとのあいさつがありました。

また、講座の途中に野志松山市長が激励のあいさつに来ていただき、東日本大震災時のご自身の経験から、命の大切さと防災士の役割の重要性について説明され、参加者全員が防災士の資格を取得し、地域における防災組織のリーダーとして活躍してほしいとのお話をいただきました。

なお、講座内容は、愛媛大学防災情報研究センターの教員から、近年の自然災害に学ぶ、耐震診断と補強、風水害、土砂災害とその対策、都市防災等についての講義を担当、また松山市職員から防災士の役割、避難所運営、松山市における災害とその対応等の講義及び災害から命を守る救助技術の実技として、ロープワーク、応急担架の作成や搬送方法、倒壊家屋からの救出救護の方法について参加者一人ひとりが技術の習得をされました。

最終日、日本防災士機構が実施する防災士の試験を希望された参加者は、緊張の中、真剣に試験問題に取り組んでいました。



矢田部センター長の講演

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

日 時：第1回 平成27年8月20日(木)～21日(金)

第2回 平成27年8月22日(土)～23日(日)

第3回 平成27年10月17日(土)～18日(日)

場 所：松山市保健所・消防合同庁舎

参加者：462名

講座日程（カリキュラム）：

日程	会場	時 限	時 分	講 義 内 容	講 師	
1 日 目	松山市保健所・消防合同庁舎	趣旨説明 ビデオ上映	9:15～9:30	オリエンテーション		
		1時限目	9:30～10:30	防災士の役割	松山市消防局 芝 大輔 講師	
		2時限目	10:40～11:40	近年の自然災害に学ぶ	愛媛大学 矢田部龍一 講師	
		昼 食（防災ビデオ上映）				
		3時限目	12:40～13:40	耐震診断と補強	愛媛大学 二神 透 講師	
		4時限目	13:50～14:50	風水害、土砂災害とその対策	愛媛大学 竹田 正彦 講師	
		5時限目	15:00～16:00	都市防災	愛媛大学 二神 透 講師	
		6時限目	16:10～17:10	地震のしくみと被害	愛媛大学 高橋 治郎 講師	
		17:10～17:20	事務連絡			
2 日 目	松山市保健所・消防合同庁舎	1時限目	9:30～11:40	災害から命を守る救助技術 実技指導	松山市消防局	
		2時限目				
		昼 食（防災ビデオ上映）				
		3時限目	12:40～13:40	避難所運営	松山市 二宮 達司 講師	
		4時限目	13:50～14:50	地域の防災活動	松山市消防局 渡部 幸雄 講師	
		5時限目	15:00～16:00	地域防災計画と防災マップ	松山市 矢野 秋文 講師	
		6時限目	16:10～17:10	松山市における災害とその対応	松山市 上野 恵 講師	
	日本防災士 機構 主催	17:30～18:30	防災士資格取得試験	NPO法人日本防災士機構が実施する 防災士資格取得試験です。		

2.8 社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座

【実施スケジュール】

受講申請書受付

期間：平成27年9月14日（月）～平成27年9月30日（水）

ME 養成講座（前期5日間、中期2日間、後期5日間の合計12日間）

【前期日程】平成27年10月19日（月）～平成27年10月23日（金）

【中期日程】平成27年10月26日（月）、平成27年11月6日（金）

【後期日程】平成27年11月16日（月）～平成27年11月20日（金）

昨年度より講座期間2日延長、フィードバックの充実、四国地方への展開（四国大学教員の招聘）

ME 認定試験

期日：平成27年12月8日（火） 筆記試験（論文＋専門知識）：専門知識は今年度実施

期日：平成27年12月15日（火） プレゼンテーション試験（発表7分、質疑8分）

ME シンポジウム 及び ME 認定書授与式

期日：平成28年1月6日（水）

場所：愛媛大学 南加記念ホール

【協議会等の開催状況】

10月2日	社会基盤メンテナンス（ME）養成講座 受講生申込審査
12月2日	第2回愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会
12月2日	第1回社会基盤メンテナンスエキスパート審査委員会
12月18日	第2回社会基盤メンテナンスエキスパート審査委員会
12月18日	第3回愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会

表 1. 平成 27 年度社会基盤メンテナンスエキスパート (ME) 養成講座一覧表

	1 時限目 (8:30～10:00)	2 時限目 (10:20～11:50)	3 時限目 (12:40～14:10)	4 時限目 (14:30～16:00)	5 時限目 (16:20～17:50)
10/19	ガイダンス	社会資本とアセット トマネジメント	アセットマネジメント概論 (構造物全般)	アセットマネジメント概論 (構造物全般)	ワークショップ
10/20	アセット情報の収 集および管理	ライフサイクルコスト概論 (構造物全般)	ライフサイクルコスト演習	リスクマネジメント概論	ワークショップ
10/21	劣化モデルと評価 手法	劣化モデルと評価 方法	劣化モデルと評価 手法 演習	道路法の改正と 道路保全	ワークショップ
10/22	構造物の基礎工の 設計	橋梁の耐震補強	橋梁の補修設計	コンクリート橋の 損傷と対策	橋梁上部工の設 計, 維持管理 (床版)
10/23	橋梁上部工の設 計, 維持管理 (コンクリート橋)	橋梁上部工の設 計, 維持管理 (鋼橋)	鋼橋の損傷と対策	橋梁下部工の設計	ワークショップ
10/26	橋梁の点検手法	構造物の維持管理	実習 橋梁の維持管理		
11/6	舗装の設計と維持 管理	トンネルの維持管 理	実習 トンネルの維持管理		
11/16	擁壁の設計と 維持管理	擁壁の設計と維持 管理演習	実習 自然斜面, 落石, 切土, 擁壁の維持管理		
11/17	健全度評価手法 (土構造物)	健全度評価手法 (地盤)	斜面の維持管理	斜面の維持管理 演習	斜面の維持管理 演習
11/18	河川の維持管理	河川構造物の維持 管理	補強土	下水道の維持管理	実習 下水道の 維持管理
11/19	四国・愛媛県の 地形と地質	洪水被害の概要と 対策	土砂災害 (土石流) の 概要と対策	土砂災害 (土石流) の 概要と対策 演習	ワークショップ
11/20	地震発生による 被害と対策	津波発生と 被害想定 範囲予測と対策	地震対策のソフト 対策と避難 演習	閉講式	※最終日の閉講式 で修了証を授与

表 2. 講座の実施状況



リスクマネジメント講義の様子 (10/20)



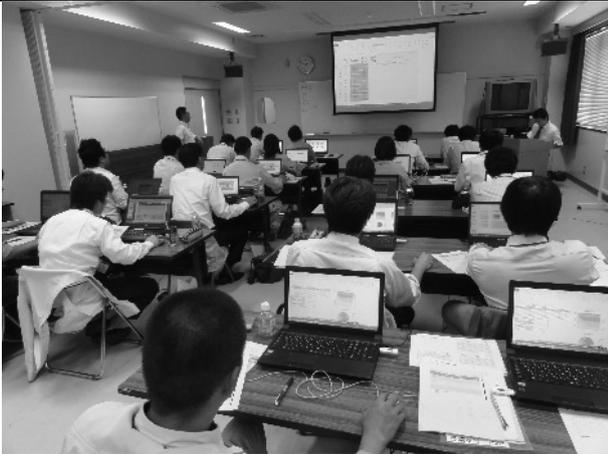
四国・愛媛県の地形と地質講義の様子 (11/19)



橋梁のフィールドワークの様子 (10/26)



斜面のフィールドワークの様子 (11/16)



ライフサイクルコスト演習の様子 (10/20)



斜面の維持管理演習の様子 (11/17)

愛媛大学・社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座シンポジウム

－愛媛と四国の社会基盤を維持管理する技術者人材育成プロジェクト－

■日時：2016年1月6日（水）15:00～17:20

■場所：愛媛大学城北キャンパス内 南加記念ホール

■プログラム

(1) 開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

(2) 講演「地方自治体における道路資産のメンテナンスサイクル及び

マネジメントサイクル汎用システム開発と展開」

高知工科大学社会マネジメントシステム研究センター長 那須 清吾 氏

(3) 講演「点検結果の記録と健全性の診断」

国土交通省四国地方整備局企画部事業調整官 谷脇 準蔵 氏

(4) 講演「愛媛県社会基盤の現状と今後の取り組み」

愛媛県土木部長 頼木 清隆 氏

(5) 報告「愛媛と四国のインフラを守る人材育成講座

～社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座～

愛媛大学工学部環境建設工学科学科長 森脇 亮

(6) ME 養成講座で得た成果発表（ME2 期生代表）

「橋梁についての管理方策について」

（一社）四国クリエイト協会松山支所 高野 俊宏 氏

「地域技術者の人材育成について」

八幡浜市役所産業建設部建設課 小西 佐知 氏

(7) 「愛媛 ME の会」の発足について

愛媛県土木部道路維持課 相原 博紀 氏

(8) 閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 吉井 稔雄

主催：愛媛大学防災情報研究センター，愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会

共催：愛媛大学工学部環境建設工学科



那須先生 谷協事業調整官 頼木土木部長

図 1. シンポジウムでの講演者の発表及び会場の様子



図 2. ME 認定証授与と会場の様子 (矢田部センター長から各々ME 認定者に手渡される)



図 3. ME 認定者 22 名と大学教員スタッフ

社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座の目的と意義

養成講座は、あらたな社会基盤の整備，既存社会基盤の維持管理・補修の計画・設計・実施技術を習得し，地域の活性化に貢献できる人材としての社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）を育成することを目的としています。

我が国では，経済成長とともに道路を中心とした多くの社会基盤の整備がなされてきましたが，これらの構造物は劣化が促進される傾向にあります。そして，少子高齢化に伴い新たな社会基盤の整備，および維持・管理に携わる技術者が不足傾向にあり，行政と業界双方の技術力を向上させる取り組みが必要不可欠な課題としてあります。このような状況下で，社会基盤の構造物の長寿命化を図るなど国の施策として求められており，構造物等の劣化状態を適確に診断し対処できる技術者を育成することは，地域を含め，これからの我が国土を守るためにも非常に意義のあることです。

【愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会】

愛媛大学	防災情報研究センター/工学部環境建設工学科
国土交通省	四国地方整備局 企画部/松山河川国道事務所
愛媛県	土木部 管理局 技術企画室
松山市役所	都市整備部道路管理課/下水道部下水道政策課
松山市役所	下水道部下水道サービス課/公営企業局建設整備課
今治市役所	都市建設部 道路課
宇和島市役所	建設部 建設課
八幡浜市役所	産業建設部 建設課
新居浜市役所	建設部 道路課
西条市役所	建設部 建設道路課
大洲市役所	建設部 建設課
伊予市役所	産業建設部 土木管理課
四国中央市役所	建設課
西予市役所	産業建設部 建設課
東温市役所	まちづくり課
上島町役場	建設課
久万高原町役場	建設課 公共土木班
松前町役場	まちづくり課
砥部町役場	建設課

内子町役場 建設デザイン課
伊方町役場 建設課
松野町役場 建設課
鬼北町役場 建設課
愛南町役場 建設課
西日本高速道路(株)四国支社
（一社）愛媛県建設業協会
愛媛県土木施工管理技士会
（一社）建設コンサルタント協会四国支部
（一社）愛媛県測量設計業協会
（一社）全国地質調査業協会連合会 四国地質調査業協会愛媛支部
愛媛県管工事協同組合連合会
（一社）全国特定法面保護協会 四国地方支部 愛媛県事務所
愛媛県法面工事業協同組合
特定非営利活動法人 愛媛県建設技術支援センター
愛媛県技術士会

2.9 西日本高速道路（株）四国支社との平成 27 年度連携推進会議

日 時： 平成 28 年 3 月 10 日（木）15 時 00 分～17 時 30 分

場 所： 愛媛大学社会連携推進機構 2 階研修室

出席者： 委員（愛媛大学 4 名，西日本高速道路（株）5 名）

陪席（愛媛大学 7 名，西日本高速道路（株）4 名）

1. 研究連携課題の状況報告について

① 熱変質の影響による和泉層群切土のり面安定評価手法の研究

愛媛大学理工学研究科環境工学専攻 NETRA Prakash Bhandary 准教授

② 交通事故リスクマネジメントに関する研究

愛媛大学理工学研究科生産環境工学専攻 吉井 稔雄 教授

2. 話題提供

① 西日本高速道路株式会社四国支社

- ・ 徳島自動車道 鳴門 JCT～徳島 IC 開通効果

西日本高速道路（株）四国支社 技術計画課 大蔵 崇 氏

西日本高速道路（株）四国支社 交通計画課長 大西 邦晃 氏

- ・ 高速道路における点検の課題

西日本高速道路（株）四国支社 技術計画課 梶原 三永 氏

② 愛媛大学

- ・ 波動・振動の多点計測技術を活用した中小橋梁の健全性診断に関する研究

愛媛大学理工学研究科生産環境工学専攻 中畑 和之 准教授

- ・ 道路構造物の維持管理

愛媛大学理工学研究科生産環境工学専攻 全 邦釘 助教



矢田部センター長挨拶



吉井教授の報告

2.10 その他の講演会等

2.10.1 地すべり防災と液状化対策工法に関する講演会

(愛媛大学大学院理工学研究科博士学位申請論文公聴会)

主催： 愛媛大学大学院理工学研究科，防災情報研究センター

日時： 平成 27 年 8 月 18 日(火) 9:00～11:00

会場： 愛媛大学工学部 2 号館 2 階 E221 講義室

参加者： 70 名

プログラム：

9:00～10:00

専攻名 生産環境工学専攻

申請者氏名 MATEBIE METEN ENDALEW

申請論文題目 GIS-based Landslide Susceptibility Modeling in the Blue Nile Gorge, Jema River Gorge and Debre Sina areas of the Central Ethiopian Highlands

論文内容 「エチオピアの中央高原地域では多くの地すべりが発生し，交通などに多大な影響を与えている。本研究では，この地域の地すべり分布や危険度判定などに関して述べる。」

指導教員 愛媛大学 教授 矢田部 龍一

10:00～11:00

専攻名 アジア防災学特別コース

申請者氏名 DEBENDRA NEUPANE

申請論文題目 Evaluation of insitu mineralized carbonate grout to improve the engineering properties of soils and other porous materials

論文内容 「地震時の液状化を防ぐことは，地盤工学上の課題である。本研究では，生体触媒機能を用いて，地盤間隙内に炭酸カルシウムを析出させ，軟弱地盤を固結する新たなグラウト注入工法を提案する。」

指導教員 愛媛大学 准教授 安原 英明

2.10.2 NHK 四国防災シンポジウム

「あなたは自分の身を守れるか？～東日本大震災から 5 年，南海トラフ巨大地震に備える～」

愛媛大学防災情報研究センターとNHK松山放送局が共催で，平成 28 年 2 月 27 日(土)13 時 30 分から愛媛大学南加記念ホールにおいてNHK四国防災シンポジウム(四国地域で放送している防災情報に関する番組の出演者をパネリストに迎えて，南海トラフの巨大地震への備えについて考えるシンポジウム)が開催され，一般市民ら 175 名の参加がありました。

このシンポジウムは，NHK松山放送局が日本大震災から 5 年を前に，南海トラフ巨大地震に対する防災意識を高めてもらおうと，四国地域のラジオ第 1 で毎週月曜に放送している「防災ネットワーク～

プロフェッショナルからの提言～」に出演している四国4県の大学の専門家を招いて開いたものです。

NHK報道局の辻村和人災害・気象センター長がコーディネーターをつとめ、この中で、高知大学防災推進センターの原副センター長は、「四国は、地盤がもろく、地震で斜面が崩落すると、集落の孤立が想定される」と述べ、道路を複数整備するなどしてリスク分散を進めることの重要性を訴えました。

また、香川大学危機管理研究センターの岩原副センター長は、「親子で一緒に新聞紙でスリッパを作り、割れたガラスで足をケガしないように出来ることを実感してもらうような取り組みで、防災への意識が高まる」と述べ、防災教育の大切さを指摘していました。

参加した大学2年生の女性は、「災害への備えを考えるきっかけになりました」と話していました。

このシンポジウムの模様は3月13日(日)の午後1時50分から四国地域のNHK総合テレビで放送されました。



会場風景

主催：NHK松山放送局、愛媛大学防災情報研究センター

日時：平成28年2月27日(土) 14:00～16:00

会場：愛媛大学南加記念ホール

参加者：175名

プログラム：

<テーマ> 「あなたは自分の身を守れるか？」

～東日本大震災から5年、南海トラフ巨大地震に備える～

【第一部】 そのとき、あなたは逃げられるか ～正しい避難行動～

- 1.津波が来たらどう避難するか
- 2.中山間地の孤立からどう生き延びるか

【第二部】 市民の防災意識を高めよう

- 1.防災教育
～市民の防災意識を高めるために何をすべきか～
- 2.メディアの役割
～災害が起きる前に何ができるか～

<パネリスト> 矢田部 龍一 (愛媛大学防災情報研究センター長)
 岩原 廣彦 (香川大学危機管理研究センター 副センター長)
 中野 晋 (徳島大学環境防災研究センター長)
 原 忠 (高知大学総合研究センター防災部門長)

<コーディネーター> 辻村 和人 (NHK 報道局 災害・気象センター長)
 増田 卓 (NHK 松山放送局アナウンサー)

2.11 防災情報研究センターニュース（メールマガジン）

本年度は、37件のメルマガ配信を行いました。3月末時点の登録者数は、1111名です。

メールマガジン配信希望の方は、センターHPからお申し込みください。また、バックナンバーもセンターHPで公開しています。

防災情報研究センター ホームページ <http://cdmir.jp/>

発行日	号	タイトル
2015.4.14	374	<ご案内>愛媛大学公開講座「防災士養成講座」について
2015.4.17	375	<ご報告>右城猛客員教授が地盤工学貢献賞を受賞しました
2015.4.24	376	<ご案内>愛媛大学防災情報研究センター平成26年度活動報告会開催のご案内
2015.5.1	377	<ご案内>ネパール地震被害調査報告会(速報)
2015.5.20	378	<ご報告>愛媛大学南加記念ホールで「ネパール地震被害調査報告会」を開催しました
2015.5.21	379	<協力依頼>2015ネパール地震復興調査研究寄付金への協力依頼
2015.5.26	380	<お知らせ>ネパール地震災害の調査に科学研究費補助金(研究代表者：矢田部センター長)が交付される
2015.5.27	381	<ご報告>「愛媛大学防災情報研究センター 平成26年度活動報告会」を開催しました
2015.5.28	382	<ご案内>防災キャラバンin 砥部町を開催します
2015.6.9	383	<ご報告>「防災キャラバンin 砥部町」を開催しました(6月7日)
2015.6.15	384	<ご案内>「ネパール地震被害調査報告会(第2回)」の開催について
2015.6.26	385	<ご案内>「道後温泉活性化フォーラム」の開催について
2015.7.8	386	<ご報告>愛媛大学防災情報研究センター「ネパール地震被害調査報告会」(第2回)を開催しました
2015.7.13	387	<ご案内>愛媛大学公開講座「防災士養成講座」の追加募集について
2015.7.28	388	<ご案内>「道後鉄道百二十年記念ウォーク」開催のご案内
2015.8.11	389	<ご案内>地すべり防災と液状化対策工法に関する講演会のご案内(愛媛大学大学院理工学研究科博士学位申請論文公聴会)
2015.9.14	390	<ご案内>鬼怒川堤防決壊災害調査報告会の開催について
2015.9.24	391	<ご案内>ネパール地震被害調査報告会(第3回)の開催について
2015.9.25	392	<ご案内>追加募集:ネパール地震被害調査報告会(第3回)の開催について
2015.10.23	393	<ご案内>ネパール地震被害調査報告会(第4回)の開催について
2015.12.9	394	<ご案内>「社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座シンポジウム～愛媛と四国の社会基盤を維持する技術者人材育成プロジェクト～」の開催について
2015.12.9	395	<ご案内>「ネパール地震被害調査報告会(第5回)」の開催について
2015.12.21	396	<ご報告>愛媛大学に防災協力事業所表示証が交付されました
2015.12.21	397	<ご案内>「防災セミナーin四国中央市」の開催について
2015.12.28	398	<ご報告>防災セミナーin四国中央市を開催しました
2016.1.6	399	<ご案内>追加募集:「ネパール地震被害調査報告会(第5回)」の開催について
2016.1.8	400	<ご報告>社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座シンポジウムを開催しました
2016.1.27	401	<ご報告>ネパール地震被害調査報告会(第5回)を開催しました
2016.1.28	402	<ご案内>「NHK四国防災シンポジウム」の開催について
2016.2.3	403	<ご案内>第4回アーバンデザイン研究会「リノベーション松山」の開催について
2016.2.12	404	<ご案内>台湾南部地震被害調査速報会の開催について
2016.2.16	405	<ご案内>松山アーバンデザインセンターフォーラム開催について
2016.3.3	406	<ご報告>台湾南部地震被害調査速報会を開催しました
2016.3.8	407	<ご案内>「えひめ建設BCP研究会」参加企業の募集について
2016.3.10	408	<ご報告>NHK四国防災シンポジウムを開催しました(放送日:3月13日(日))
2016.3.10	409	<ご案内>「ネパール地震被害調査報告会(第6回)」の開催について
2016.3.11	410	<ご案内>「ネパール地震被害調査報告会(第7回)」の開催について

3. センターが受け入れた研究活動

3.1 受託研究

(1) 地下水流動解析調査（重信川中流域）に伴うボーリング調査

（契約先：松山市，研究者：森脇・藤森，契約金額：5,171,364 円）

内容：重信川中流において、3 箇所のボーリング孔と 4 箇所の打込み孔、そして、既存の 1 箇所の観測孔、併せて、計 8 箇所で、1 年間連続した地下水の水位観測等を行い、地下水流動解析調査に必要なデータ収集を行う。

(2) 地下水流動解析調査（重信川中流域）に伴う検証

（契約先：松山市，研究者：小林・泉，契約金額：1,992,751 円）

内容：重信川中流域において、松山市が業務委託で行う解析調査と平行し、流量観測等の補足調査を行うとともに、これらの調査結果を踏まえた検証を行う。

(3) 科学的・社会的好奇心を刺激する自発的減災活動の推進

（契約先：文部科学省，研究者：森，契約金額：3,000,000 円）

内容：全国の大学等における理学・工学・社会科学分野の防災研究の成果を一元的に提供するデータベースを構築するとともに大学等の防災研究の成果の展開を図り、地域の防災・減災対策への研究成果の活用を促進する。

(4) 道後温泉活性化実施計画策定業務委託

（契約先：松山市，研究者：曲田・松本・片岡，契約金額：9,936,000 円）

内容：道後温泉活性化基本計画における 3 つの重点整備エリア（椿の湯、本館・冠山、上人坂）を中心に、基本計画を基に、事業実施に向けた具体的な計画及び事業スキームを道後温泉活性化実施計画としてまとめるものである。

(5) 花園町通り及び市駅前広場の公共空間活用等に関するワークショップ運營業務委託

（契約先：松山市，研究者：曲田・松本・片岡，契約金額：4,989,600 円）

内容：松山市最大の交通結節点である松山市駅の駅前広場や、さらに連続する花園町通りにおいて、公共交通の乗り換え利便性向上だけでなく、賑わい・憩いの創出が図れる空間としての公共空間の「あり方」「利活用」「管理」あるいはこの地域に必要な都市機能などに関し、様々な課題を住民と共有し、住民と協働の「まちづくり」を行う手段として、ワークショップを実施するもの。

(6) 平成 27 年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業

（契約先：文部科学省，研究者：矢田部，契約金額：14,042,442 円）

内容：産学官の連携した取組により、専門人材養成を戦略的に推進するため、成長分野等における取組を先導する産学官連携コンソーシアムを組織化し、中核的専門人材及び高度

人材養成のための新たな学習システムを検討し、産学官で共有するとともに、職域プロジェクト等において、全国的な標準モデルカリキュラムやその達成度評価手法、各地域の人材ニーズに対応した教育プログラム等を開発・実証する。

(7) 小型橋梁点検装置の安全性に関する研究

(契約先：(株) 第一コンサルタンツ，研究者：全，契約金額：2,160,000 円)

内容：労働安全衛生法の規程に基づく「高所作業車構造規格」による強度および安定計算。無風・最大荷重時の安定計算による反力の計算。実証実験による無風・最大荷重時の反力の計測と、上記計算結果との比較、評価。

(8) 平成 27 年度水域生物を指標とした瀬切れ河川影響評価

(契約先：四国地方整備局，研究者：矢田部，契約金額：2,786,400 円)

内容：瀬切れの期間・区間の拡大が水域に生息する生物にどのような影響をおよぼしているか調査することを目的としており、瀬切れと河川流量の実態調査及び魚類・底生動物等の水域に生息する生物の生育・生息・繁殖影響におよぼす影響に着目し、瀬切れの期間・区間の拡大が魚類等の水域に生息する生物に重大な影響を与えているかを調査する。

(9) 平成 27 年度肱川管理方策検討業務

(契約先：大洲河川国道事務所，研究者：門田，契約金額：3,801,600 円)

内容：今後の河川管理の高度化に資するために、洪水時の河床変動をコントロールする方法として、他の河川で有効性が報告されているハイドロバリア水制の肱川への適用性について詳細検討を行うとともに、マルチヘリコプターによる粒度分布解析手法の精度向上のための検討を実施するもの。

(10) 茅ヶ崎市浜竹 1 丁目におけるみどりの延焼抑制・遅延効果検証作業

(契約先：公益財団法人都市緑化機構，研究者：二神，契約金額：1,080,000 円)

内容：本業務は都市地域におけるみどりによる防災・減災対策について、地方公共団体の取組事例の情報収集を行うとともに、今後都市の強靱化に向けた緑地の活用やその機能向上に向けた取組を効率的・効果的に進めるための方策について調査検討を行う。

(11) 地下水流動解析調査（重信川下流域）に伴うボーリング調査

(契約先：松山市，研究者：小林・泉，契約金額：6,361,146 円)

内容：重信川下流域の堤内地及び河道内において、現場透水試験を含むボーリング調査や 1 年間連続した地下水の水位観測等を行い、地下水流動解析調査に必要なデータ収集を行う。

(12) 地下水流動解析調査（重信川下流域）に伴う検証

(契約先：松山市，研究者：小林・泉，契約金額：1,992,751 円)

内容：重信川下流域において、松山市が業務委託で行う解析調査と並行し、流量観測等の

補足調査を行うとともに、これらの調査結果を踏まえた検証を行う。

3.2 共同研究

(1) 熱水変質の影響による和泉層群切土のり面安定性評価手法の研究

(契約先：西日本高速道路(株)，研究者：ネトラPバンダリ，契約金額：3,872,000円)

内容：高速道路の切土のり面を適正かつ長期的に安定を図ることは重要である。本研究は、熱水変質による粘土鉱物などが高速道路の切土のり面に与える影響について検討し、のり面の安定性評価手法を開発する。

3.3 研究助成金

(1) 津波が想定される道の駅からの避難行動アニメーションの作成と提供に関する研究

(契約先：一般社団法人四国クリエイト協会，研究者：二神，契約金額：1,000,000円)

(2) 愛媛県内の防災士の現状と意識調査－女性の防災的視点－

(契約先：公益財団法人えひめ女性財団，研究者：二神，契約金額：700,000円)

3.4 寄附金

(1) 寄附講座アーバンデザイン研究部門

(契約先：松山市都市再生協議会，助成金額：90,000,000円)

設置期間：平成26年4月1日～平成29年3月31日

(2) 2015 ネパール地震復興調査研究寄附金

応用地質(株)四国支社，基礎地盤コンサルタンツ(株)四国支店，一山コンサルタンツ，(株)愛媛建設コンサルタンツ，(株)環境地質，(株)ビーセーフ，(株)雄新地質コンサルタンツ，(株)アースコンサルタンツ，南海測量設計(株)，八千代エンジニアリング(株)松山事務所，四国建設コンサルタンツ(株)，(株)シアテック，四国地質調査業協会愛媛支部，(株)ダイヤコンサルタンツ四国支店，鳥居謙一，水口晶裕，(株)芙蓉コンサルタンツ，(一社)四国クリエイト協会，紙田直充，松山地下開発(株)，復建調査設計(株)，内田純二，(株)ロイヤルコンサルタンツ，基礎地盤コンサルタンツ，山内純子，(株)四電技術コンサルタンツ松山支店，日本プロテクト(株)，(株)建設マネジメント四国，(株)第一コンサルタンツ，伊藤守，(株)高知丸高，砥部町，谷光生，(株)富士建設コンサルタンツ，(株)荒谷建設コンサルタンツ，望月秋利，(有)創友，(一社)愛媛県建設業協会上浮穴支部，(一社)愛媛県建設業協会松山支部，(一社)愛媛県建設業協会宇摩支部，(一社)愛媛県建設業協会八幡浜支部，(一社)愛媛県建設業協会喜多支部，新居浜建設業協同組合，(一社)愛媛県建設業協会伊予支部，(一社)愛媛県建設業協会西予支部，(一社)愛媛県建設業協会今治支部，(一社)愛媛県建設業協会西条支部，(一社)愛媛県建設業協会南宇和支部，(一社)愛媛県建設業協会宇和島地

方支部, 明比 譲, (株) 浅田組, 北辰会グループ チームほくしん

(3) その他

(株)今井組, (株)アースコンサルタント,(株)第一コンサルタンツ,愛媛県建設技術支援センター

4. センター教員による研究・地域貢献活動

矢田部 龍一

社会貢献活動：

1. H27.5.18, ネパールの事前防災と復興研究に向けた愛媛大学の取り組み, 愛媛大学防災情報研究センターネパール地震被害調査報告会, 愛媛大学南加記念ホール, 150名
2. H27.6.15, 鬼北町における南海トラフ巨大地震による被害想定, 平成27年度鬼北町防災教育推進協議会研修鬼北町教育委員会, 鬼北町中央公民館, 25名
3. H27.6.18, ネパールヒマラヤ地域における地震活動および2015ゴルカ地震の概要, NPO日環工総会特別講演, NPO日環工, ホテルメトロポリタンエドモント, 50名
4. H27.6.28, 近年の自然災害と災害弱者施設における防災, (公社)日本認知症グループホーム協会愛媛県支部, 愛媛県総合社会福祉会館会議室, 80名
5. H27.7.2, 社会インフラの維持管理とME養成講座への取り組み, 愛媛県ジオファイバー協会, 松山全日空ホテル, 25名
6. H27.7.7, ネパール地震復興調査研究寄付金によるネパール地震復興への活動, 愛媛大学防災情報研究センター, 愛媛大学校友会館, 45名
7. H27.7.7, 南海トラフ巨大地震に備える, ヒロセ株式会社技術講習会, ホテルJALシティ松山, 50名
8. H27.8.20, 近年の大規模自然災害と南海トラフ巨大地震-学校の避難所運営を考える-, 平成27年度砥部町防災教育推進協議会研修, 砥部町教育委員会, 砥部町文化会館, 70名
9. H27.9.10, 愛媛県の大規模災害への備え, 愛媛大学附属病院, 愛媛大学医学部40周年記念講堂, 200名
10. H27.9.12, 多発する自然災害の時代を生きる, 公益社団法人日本技術士会四国本部防災講演会・見学会, 新居浜市多喜浜公民館, 50名
11. H27.10.6, 未来の宝, 子供達の命を災害から守るために, 近永小学校学校防災教育実践モデル地域研究事業特別講演, 近永小学校, 40名
12. H27.11.5, ネパール地震復興調査活動の展開, 愛媛大学防災情報研究センターネパール地震被害調査報告会, 愛媛大学社会連携推進機構研修室, 20名
13. H27.11.16, 南海トラフ巨大地震による鬼北町の被害想定と家庭で取り組む防災, 平成27年度鬼北町防災教育推進協議会, 鬼北町教育委員会, 鬼北町中央公民館, 25名
14. H27.11.24, 大規模災害時の学校の避難所運営, 松野町防災教育推進協議会, 鬼北町教育委員会, 松野町山村開発町民センター, 20名
15. H27.11.27, 大規模自然災害の時代を生き抜く, 松山市防災教育推進協議会, 松山市教育委員会, 松山市青少年センター, 150名
16. H27.12.2, 東温市の自然災害と防災まちづくり, 東温市, 東温市役所大会議室, 100名
17. H28.1.20, ネパールの地震復興活動の展開, 愛媛大学防災情報研究センターネパール地震被害調査報告会, 愛媛大学校友会館, 40名
18. H28.2.28, 防災マップを活用した被害予測・防災対策について, 東温市, 川内公民館大ホール, 100名

19. H28.3.6, 地域防災における青年の役割, 創価学会, 愛媛文化会館, 100 名
20. 日本-中国-韓国「地球規模課題及び北東アジア地域で重要な課題」研究交流事業等事後評価委員長 (JST)
21. 事業評価監視委員会委員長 (国土交通省四国地方整備局)
22. 愛媛県建設工事総合評価審査委員会 委員
23. 石手川ダム水源地域ビジョン推進連絡協議会 会長
24. 松山市下水道事業経営審議会 副会長
25. 西日本高速道路(株)四国支社 入札監視委員会 委員
26. (財)防災研究協会 非常勤研究員
27. 松山市都市再生協議会会長
28. 道路防災有識者 (国土交通省四国地方整備局)
29. 愛媛県環境審議会副会長
30. H28.3.18, NHK 松山放送局長感謝状

論文・研究発表：

1. Meten M., Bhandary N.P., Yatabe, R., 2015. GIS-based frequency ratio and logistic regression modelling for landslide susceptibility mapping of Debre Sina area in central Ethiopia, *Journal of Mountain Science*, 12(6), pp.1355-1372, DOI:10.1007/s11629-015-3464-3 (2015.11). <IF: 0.963>
2. Meten M., Bhandary N.P., Yatabe, R., 2015. Effect of Landslide Factor Combinations on the Prediction Accuracy of Landslide Susceptibility Maps in the Blue Nile Gorge of Central Ethiopia, *Geoenvironmental Disasters*, 2:9 DOI:10.1186/s40677-015-0016-7.
3. Meten M., Bhandary N.P., Yatabe, R., 2015. Application of GIS-based fuzzy logic and rock engineering system (RES) approaches for landslide susceptibility mapping in Selekula area of the Lower Jema River Gorge, Central Ethiopia, *Environ Earth Science* 74:4, pp.3395-3416, DOI 10.1007/s12665-015-4377-8. <IF: 1.765>
4. Rasyid A.R., Bhandary N.P., Yatabe R., 2016. Landslide Susceptibility Mapping Using Logistic Regression in Eastern Side of Lompobattang Mountain, Indonesia, *Proc. The 10th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries 2016 (AURG 2016)*, 9-11 January 2016, Makassar, Indonesia, pp. 351-356, ISBN : 978-4-49980612-0-5
5. Alimuddin I., Rasyid A.R., Purwanto, Bhandary N.P., Yatabe R., Sumantyo J.T.S., Kuze H., 2015. Landslide susceptibility mapping using DinSAR and statistic model in Bawakaraeng mountain, Sulawesi, Indonesia, *Proc. The 23rd CEReS International Symposium 2015*, Chiba University Japan, 1-2 December 2015, pp.3A-I, ISBN : 978-4-901404-13-6
6. Alimuddin I., Rasyid A.R., Bhandary N.P., Yatabe R., 2015. Tropical Landslide Susceptibility Mapping using Differential Interferometry SAR and Statistic Model in Bawakaraeng and Lompobattang Mountain, Indonesia. *Proc. International Symposium on Earth Science and Technology (Cinest)*, Fukuoka, Japan, 3-4 December 2015, pp.105-109, ISBN: 978-4-9902356-4-2
7. Bhandary N.P., Yatabe R., Paudyal Y.R., 2015. Response of tall buildings to 2015 Gorkha

Earthquake as seen from natural frequency perspective, The 14th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia (USMCA2015), October 29-31, 2015, Kathmandu, Nepal,

8. Rasyid A.R., Bhandary N.P., Yatabe R., 2015. GIS Based Analysis for Landslide Susceptibility Mapping Using Logistic Regression Model at Lompobattang Mountain, Indonesia, Proc. The 2nd Makassar International Conference on Civil Engineering (MICCE2 2015), 11-13 August 2015, Makassar, Indonesia, pp.25-34, ISBN 978-979-530-134-9
9. Bhandary NP and Yatabe R, 2015. GIS-based landslide hazard analysis for road network discontinuity assessment during earthquakes -A state-defining parametric approach-, Seventh Nepal Geological Congress (NGC-VII), 7-9 April 2015, Kathmandu, Nepa
10. 矢田部龍一, 竹田正彦, 二神透, ネットラ.P.バンダリ, 2016, 地域防災力強化に向けた大学を核とした防災リーダー育成プログラム, 21世紀の南海地震と防災, 第10巻, pp.133-136, 公社土木学会四国支部&京大防災研究所, 平成28年1月
- Timilsina M, Bhandary NP, Dahal RK, Yatabe R, 2014. Distribution probability of large-scale landslides in central Nepal, *Geomorphology* 226: 236–248 (Published: 2014.12.1; Online: 2014.6.27; DOI: 10.1016/j.geomorph.2014.05.031) <IF: 2.577>
11. 浅野太揮, バンダリ・ネットラ P., 矢田部龍一, 2016. GIS解析による2015年ネパール地震時斜面崩壊の特徴, 第9回四国GISシンポジウム, 高知市, 2016年2月29日
12. 浅野太揮, バンダリ・ネットラ P., 矢田部龍一, 2015. GIS解析による2015年ネパール地震時斜面崩壊の特徴, 平成27年度地盤工学会四国支部技術研究発表会, 高松市, 平成27年11月19日
13. バンダリ ネットラ プラカシュ, 矢田部龍一, 酒井啓太, 2015. 残留状態におけるせん断クリーブ破壊試験と力学モデル構築, 日本地すべり学会第54回研究発表会, 平成27年8月25日~28日, 山形市
14. 矢田部龍一, ネットラ・バンダリ, 2016. 2015ネパール・ゴルカ地震による道路沿いの斜面災害の特徴, 2015年ネパール地震と地震災害に関する総合調査最終報告会, 平成28年3月7日, 東京

竹田 正彦

社会貢献活動：

1. 2015.4.10, 「防災・危機管理教育に関する愛媛大学の取り組み」, 四国5大学連携 防災・減災シンポジウム, 四国5大学連携防災・減災教育研究協議会, ホテルグランフォーレ (四国中央市)
2. 2015.5.31, ラジコンヘリによる空撮調査, 肱川総合水防演習, 肱川総合水防演習実行委員会 (四国地方整備局ほか), 肱川河川敷 (大洲市若宮地先)
3. 2015.7.11, 「最近の風水害」「地震のしくみと被害」, 平成27年度愛媛県防災士養成講座, 愛媛県, 宇和島市役所
4. 2015.7.11, 「地域防災力の向上と防災士」, 防災士の全体会, 新居浜市, 新居浜市消防本部コミュニティ防災センター
5. 2015.7.18, 「災害時の孤立対策と地域連携」, 燧灘防災会・総会, 燧灘防災会, ホテルグランフォーレ (四国中央市)

6. 2015.8.20, 「風水害, 土砂災害とその対策」, 平成 27 年度愛媛大学公開講座「防災士養成講座」, 愛媛大学防災情報研究センター, 松山市保健所・消防合同庁舎, 184 名
7. 2015.8.22, 「風水害, 土砂災害とその対策」, 平成 27 年度愛媛大学公開講座「防災士養成講座」, 愛媛大学防災情報研究センター, 松山市保健所・消防合同庁舎, 154 名
8. 2015.8.27, 防災研修会, 愛媛大学教育学部附属幼稚園, 愛媛大学教育学部附属幼稚園 えほんの部屋, 16 名
9. 2015.8.27, 「南海トラフ巨大地震に備える」, 防災講演会, 四国クリエイト協会松山支所, 松山全日空ホテル (114 名)
10. 2015.8.30, 砥部町総合防災訓練, 砥部町, 愛媛県立医療技術大学
11. 2015.9.1, ドローンによる情報収集訓練, 愛媛県総合防災訓練, 愛媛県, メイン会場 (四国中央市ジャジャウまフィールド)
12. 2015.9.16, 「大規模災害に備えた BCP (業務継続計画)」, (福) 愛媛県社会福祉協議会, 愛媛県総合社会福祉会館 2 階 多目的ホール, 100 名
13. 2015.10.17, 「風水害, 土砂災害とその対策」, 平成 27 年度愛媛大学公開講座「防災士養成講座」, 愛媛大学防災情報研究センター, 松山市保健所・消防合同庁舎, 122 名
14. 2015.10.31, 「最近の風水害」「地震のしくみと被害」, 平成 27 年度愛媛県防災士養成講座, 愛媛県, 愛媛県中予地方局
15. 2015.11.6, 「四国における地域防災の現状と愛媛大学の取り組み」, 職員研修会, (財) 国土技術研究センター, (財) 国土技術研究センター会議室
16. 2015.11.14, 「最近の風水害」「地震のしくみと被害」, 平成 27 年度愛媛県防災士養成講座, 愛媛県, 愛媛県東予地方局
17. 2015.12.5, 「最近の風水害」「地震のしくみと被害」, 平成 27 年度愛媛県防災士養成講座, 愛媛県, 今治市総合福祉センター
18. 2015.12.26, 「大規模災害における地域での企業防災の役割について」, 防災セミナー in 四国中央市, 愛媛大学防災情報研究センター・四国中央市, 四国中央市福祉会館 4 階多目的ホール, 100 名
19. 2016.1.21, 第 3 部座長, 南海地震四国地域学術シンポジウム, 土木学会四国支部, サンポートホール高松, 80 名
20. 2016.2.22, 「愛媛大学の取り組み」, 松山市地域防災協議会第 2 回理事会, 松山市地域防災協議会, 松山市保健所・消防合同庁舎
21. 2016.2.22, 「防災 「地震・土砂災害対策」」, 第 48 回 (平成 27 年度) 警防科, 愛媛県消防学校, 愛媛県消防学校小教室, 11 名
22. 2016.3.11, 「南海トラフ巨大地震－災害を知り, 備える」, 今治経済研究会, 今治経済研究会, 今治国際ホテル, 55 名
23. 2016.3.26, 「災害への備えと防災士の役割」, 松前町防災士・自主防災組織研修講座, 松前町, 松前庁舎, 60 名
24. 四国建設業 BCP 等審査会, 部会員 (四国地方整備局)
25. 松山市防災会議, 委員

26. そなえる補助金モデル事業選考委員会, 委員 (松山市消防局)
27. 平成 27 年度学校防災アドバイザー (愛媛県)
28. 社会支援部門/地域レジリエンス創生委員会 幹事 ((公社) 土木学会)
29. 企画部門/強くしなやかな社会を実現するための減災・防災等に関する研究委員会 幹事
((公社) 土木学会)
30. えひめ建設業 BCP 等審査会, 委員 (愛媛県)
31. 愛媛県建設工事総合評価審査委員会, 委員 (愛媛県)

吉井 稔雄

社会貢献活動:

1. 松山市都市計画審議委員会 委員長: 松山市
2. 愛媛県土地利用審査会 委員: 愛媛県
3. 愛媛県都市計画審議会 委員: 愛媛県
4. 愛媛県開発審査会 委員長: 愛媛県
5. 愛媛県道路懇談会 会長: 愛媛県
6. 社会資本整備審議会専門委員: 国土交通省
7. 愛媛県自転車安全利用研究協議会 構成員: 愛媛県
8. 愛媛県公共事業評価委員会 委員: 愛媛県
9. 松山市駅周辺地区における公共空間のあり方検討業務委託選考委員会 有識者: 松山市
10. 松山駅周辺笑顔あふれるまちづくり推進協議会 副会長: 松山市
11. 愛媛県道路交通環境安全推進アドバイザー会議 委員: 国土交通省松山河川国道事務所
12. 新居浜駅周辺まちづくり協議会 委員長: 新居浜市
13. 愛媛県高規格道路等利活用検討会 委員長: 愛媛県
14. 松山市立地適正化及び交通網形成検討協議会 委員: 松山市
15. 松山空港アクセス向上検討会 委員/幹事長
16. 高速道路ネットワークシミュレーションモデルの構築検討委員会 委員
17. 交通技術委員会 幹事: 阪神高速道路株式会社
18. 資格委員会 委員: 交通工学研究会
19. TOE 分科会 座長: 交通工学研究会
20. 交通工学論文集 (特集号) 査読委員: 交通工学研究会
21. 事業委員会 委員: 交通工学研究会
22. 土木計画学研究委員会 春大会運営小委員会 委員長: 土木学会
23. 土木学会四国支部 商議員: 土木学会
24. 都市計画学会中国四国支部 幹事: 都市計画学会
23. 高知工科大学 客員教授
24. 交通事故リスクマネジメントに関する研究 委員長: 交通工学研究会

論文・研究発表：

1. 兵頭知, 吉井稔雄: ショックウェーブに着目した事故発生リスク分析, 第 35 回交通工学研究発表会論文報告集, CD-ROM, 2015.9
2. Satoshi HYODO, Toshio YOSHII: Analysis of the impact of the traffic states on traffic accident risk, Proceedings of 22st World Congress on Intelligent Transportation Systems (Scientific Paper), ITS-2863, Bordeaux, 2015.10
3. 兵頭 知, 吉井稔雄, 大宮清英, 松下聖史: 高速道路における休憩行動が走行挙動に及ぼす影響の分析, 第 13 回 ITS シンポジウム 2015, 2-1B-02, CD-ROM, 2015.12
4. 片岡源宗・吉井稔雄・二神透・大口敬: 救急救命搬送需要予測手法の構築, 土木学会論文集 D3, 土木学会論文集 D3, Vol. 7, pp.I_407-414, 2015.12
5. 兵頭知・吉井稔雄・高山雄貴: 明るさの変化に着目した高速道路走行時の事故発生リスク分析, 土木学会論文集 D3, 土木学会論文集 D3, Vol. 7, pp.I_1027-1033, 2015.12
6. Yasuhiro Shiomi, Hiroaki Nishiuchi and Toshio Yoshii: Mode Classification for Mixed Traffic Flow Based on Smartphone Data, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 11, pp.1970 - 1981, 2015.
7. 安原弘貴, 倉内慎也, 吉井稔雄, 尾高慎二: Bluetooth 通信を活用した交通観測手法の基礎的分析, 平成 27 年度四国支部技術研究発表会, CD-ROM, 2015.5
8. 兵頭知, 吉井稔雄, 倉内慎也, 松田健右: 一般道路における事故リスク原単位の検討, 平成 27 年度四国支部技術研究発表会, CD-ROM, 2015.5
9. 神垣裕輝, 福本大介, 吉井稔雄, 大西邦晃: プローブデータを用いた高速道路における走行挙動と事故リスク分析, 平成 27 年度四国支部技術研究発表会, CD-ROM, 2015.5
10. 兵頭知, 吉井稔雄, 倉内慎也: 渋滞末尾に着目した事故リスク分析, 平成 27 年度四国支部技術研究発表会, CD-ROM, 2015.5
11. 大山貴志, 倉内慎也, 吉井稔雄, 美濃雄介: 交通事故リスクの認知状況に関する基礎的分析, 平成 27 年度四国支部技術研究発表会, CD-ROM, 2015.5
12. 村上和宏, 倉内慎也, 吉井稔雄: 事故リスク情報が高速道路利用者の出発時刻選択に及ぼす影響の分析, 平成 27 年度四国支部技術研究発表会, CD-ROM, 2015.5
13. 山田隆広, 倉内慎也, 吉井稔雄, 永井基博: 高速道路利用時の休憩施設選択行動の分析, 平成 27 年度四国支部技術研究発表会, CD-ROM, 2015.5
14. 兵頭知, 吉井稔雄, 倉内慎也: 一般道路における事故リスク原単位の検討, 第 51 回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2015.6.
15. 吉井稔雄, 倉内慎也, 兵頭知, 佐川奈緒: 地区交通における高齢者事故に関する統計分析, 第 51 回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2015.6.
16. 澤井友貴, 片岡源宗, 吉井稔雄, 二神透: 待ち行列モデルを用いた救急救命搬送サービスの分析, 第 51 回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2015.6.
17. 西内裕晶, 塩見康博, 倉内慎也, 吉井稔雄, 菅芳樹: 移動体データ取得のための Bluetooth MAC アドレス検知の指向性に関する基礎分析, 土木情報学シンポジウム, 2015.10
18. 兵頭知, 吉井稔雄: 時間帯の違いに着目した一般道路における事故リスク分析, 第 47 回土木計

画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2015.11.0

19. Shinya KURAUCHI, Toshio YOSHII & Satoshi HYODO: Impact study of various information about accident risk on driver's route choice behavior, 6th International Symposium on Transportation Network Reliability, Nara, Japan, 2015.8
20. Satoshi HYODO, Toshio YOSHII: Analysis of the impact of the traffic states on traffic accident risk, 22nd ITS World Congress, Bordeaux, France, 2015.10
21. 特願 2015-104840, 評価方法, 評価プログラムおよび情報処理装置, 吉井稔雄, 高野耕世, 2015.5
22. 特願 2015-236011, 情報出力プログラム, 情報出力方法及び車載装置, 吉井稔雄, 倉内慎也, 高野耕世, 大宮清英, 平賀典生, 2015.12

相引 眞幸

社会貢献活動:

1. 東日本大震災と愛媛大学の課題: 高松: 四国防災プログラム特別講演: 12 June 2015
2. 敗血症性 DIC の治療 Update: 福井市: 日本集中治療医学会一北陸東海地方会特別講演: 20 June 2015
3. 心停止後症候群治療の現状と展望: 名古屋: 第 28 回脳死脳蘇生学会シンポジウム: 5 July 2015
4. Concerns from Jap. Assoc. of Brain Hypothermia about TTM trials for comatose post-cardiac arrest patients: 高松: 18th Japanese Brain Hypothermia Meeting (International Session): 特別講演: 10 July 2015
5. 重症敗血症の集学的治療とその背景: 東京: 東京女子医科大学学内講演会特別講演: 24 July 2015
6. Protocol for Therapeutic Hypothermia for Post-Cardiac Arrest Syndrome (PCAS): Miami, FL: 3rd Therapeutic Hypothermia and Target Temperature Management Meeting シンポジウム: 6 March 2015
7. 重症敗血症治療の現状と今後の展開: 高松: 敗血症サマーセミナー: 特別講演: 28 Aug 2015
8. Optimal temperature of target temperature management after 2015 CoSTR: Taipei: 3rd Asian TTM task panel meeting: 特別講演: 6 Nov.2015
9. Would you discard therapeutic hypothermia again?: Taipei: 8th Asian Conference of Emergency Medicine 講演: 8 Nov.2015
10. KOL Roundtable Discussion: Seoul: Grand Hyatt Seoul, South Korea November 14, 2015: 講演: 14 Nov.2015
11. Japanese Experience of Therapeutic Hypothermia for Post-Cardiac Arrest Syndrome (PCAS): Manila: 30th Annual Meeting of Philippines Heart Association: RCA シンポジウム: 20 May 2015
12. 耳鼻咽喉科医の救急医療 ABC: 松山: 愛媛耳鼻咽喉科医会: 特別講演: 18 Oct.2015
13. 重症敗血症治療の現況と将来: 金沢: 金沢敗血症セミナー: 特別講演: 19 Oct.2015
14. rh-Thrombomodulin (rhTM) の今後の展開: 東京: 旭化成マーケティング対策会議: 講演: 20 Oct. 2015

15. 重症敗血症の集学的治療とその背景：東京：東邦大学院内セミナー：特別講演：20 Nov.2015
16. 重症敗血症の集学的治療とその機序：神戸：神戸大学大学院講義：特別講義：30 Nov.2015
17. 2015 JRC Guidelines 'ALS-PICOs' high-lights：東京：JRC seminar：シンポジウム：29 Nov.2015

論文・研究発表：

1. Matsumoto H, Umakoshi K, Kikuchi S, Uemura S, Takahashi K, Takeba J, Ohboshi M, Aibiki M. : Ther Hypothermia Temp Manag. 1718 : Full Recovery Case After 82 Minutes Out-of-Hospital Cardiac Arrest: Importance of Chain of Survival and Predicting Outcome. : 5 : 2015
2. Mayuki Aibiki, Suguru Annen, Naoki Moriyama, Hironori Matsumoto, Kensuke Umakoshi, Satoshi Kikuchi, Muneaki Ohshita and Jun Takeba. : Resuscitation. : 1 : Can therapeutic hypothermia of 33 °C itself not modulate inflammatory response after out-of-hospital cardiac arrest? : 0 : 2015 : 92 : その他
3. Mayuki Aibiki, : Critical Care Medicine : 97 : Can bradycardia during therapeutic hypothermia help predicting neurological outcome and be beneficial in post-cardiac arrest patients ? : 3 : 2015 : 43 : その他
4. Mayuki Aibiki, Hironori Matsumoto, Jun Takeba, Kensuke Umakoshi, Satoshi Kikuchi : Yatin Mehta, Ed : in Textbook of Critical Care -including Trauma amd Emergency Care- : 1625 : Resuscitation of Cardiac Arrest, Post-resuscitation Care and Therapeutic Hypothermia, : 2015 : Chapter 3 : 著書 : JAYPEE Co.
5. Hironori Matsumoto, Kensuke Umakoshi, Jun Takeba, Suguru Annen, Naoki Moriyama and Mayuki Aibiki : doi:10.4172/2165-7548.1000252 : Emergency Medicine (Los Angeles) : 252257 : Continuous Monitoring of Cerebral Near-Infrared Spectroscopy (NIRS) after Cerebral Air Embolism : 5 : 2015 : 症例
6. 相引眞幸, 大下宗亮, 森山直紀, 安念優 : 救急・集中治療 : 718724 : Post cardiac arrest syndrome (PCAS)の輸液管理一脳低温療法下を含む : 27 : 2015
7. 相引眞幸, 大下宗亮, 森山直紀, 竹葉淳 : 救急医学 : 16111615 : 敗血症性凝固異常におけるアンチトロンビン製剤の位置づけ : 2015 : 39 : 総説
8. Callaway CW, Soar J, Aibiki M, Böttiger BW, Brooks SC, Deakin CD, Donnino MW, Drajer S, Kloeck W, Morley PT, Morrison LJ, Neumar RW, Nicholson TC, Nolan JP, Okada K, O'Neil BJ, Paiva EF, Parr MJ, Wang TL, Witt J; Advanced Life Support Chapter Collaborators. : Circulation : 84145 : Part 4: Advanced Life Support: 2015 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations. : -161 : 2015 : 132
9. Callaway CW, Soar J, Aibiki M, Böttiger BW, Brooks SC, Deakin CD, Donnino MW, Drajer S, Kloeck W, Morley PT, Morrison LJ, Neumar RW, Nicholson TC, Nolan JP, Okada K, O'Neil BJ, Paiva EF, Parr MJ, Wang TL, Witt J; Advanced Life Support Chapter

Collaborators. : Resuscitation : 71120 : Part 4: Advanced life support: 2015 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science with Treatment Recommendations. : 2015 : 95

10. Donnino MW, Andersen LW, Berg KM, Reynolds JC, Nolan JP, Morley PT, Lang E, Cocchi MN, Xanthos T, Callaway CW, Soar J; and the ILCOR ALS Task Force. : Circulation : 244856 : Temperature Management After Cardiac Arrest: An Advisory Statement by the Advanced Life Support Task Force of the International Liaison Committee on Resuscitation and the American Heart Association Emergency Cardiovascular Care Committee and the Council on Cardiopulmonary, Critical Care, Perioperative and Resuscitation. : -25 2015 : 132
11. Takeba J, Takahashi T, Watanabe S, Imai H, Kikuchi S, Umakoshi K, Matsumoto H, Ohshita M, Miura H, Aibiki M. : J Shoulder Elbow Surg. : 17491756 : Short-term clinical results of arthroscopic osteochondral fixation for elbow osteochondritis dissecans in teenaged baseball players. : -11 : 2015 : 24
12. Polderman KH, Noc M, Kurz M, Aibiki M. : Ther Hypothermia Temp Manag. : 1937 : Therapeutic Hypothermia in Post-Cardiac Arrest and Myocardial Infarction. : -4 : 2015 : 5
13. Kikuchi S, Nishihara T, Kawasaki S, Abe N, Kuwabara J, Choudhury ME, Takahashi H, Yano H, Nagaro T, Watanabe Y, Aibiki M, Tanaka J. : Biochem Biophys Res Commun. : 31926 : The ameliorative effects of a hypnotic bromvalerylurea in sepsis. : -2 : 2015 : 459
14. Kikuchi S, Watanabe Y, Sato K, Matsumoto H, Umakoshi K, Aibiki M. : Surg Today. : 14425 : Minimally invasive necrosectomy using resectoscope for intractable necrotic abscess after severe acute pancreatitis: report of a case. : -11 : 2015 : 45
15. Maekawa T, Yamashita S, Nagao S, Hayashi N, Ohashi Y; Brain-Hypothermia Study Group. : J Neurotrauma. : 4229 : Prolonged mild therapeutic hypothermia versus fever control with tight hemodynamic monitoring and slow rewarming in patients with severe traumatic brain injury: a randomized controlled trial. : -7 : 2015 : 32
16. Mayuki Aibiki and Noriyasu Fukuoka : Tarek A Ahmed : in the book of "Pharmacokinetic Principles in Theory and Application" : 3546 : Pharmacokinetic (PK) Characteristics in Critically Ill Patients : 2015 : InTech Europe InTech d.o.o, Janeza Trdine 9,51000 Rijeka, Croatia ISBN 978-953-51-4119-8.

木村 映善

社会貢献活動 :

1. 電子情報通信学会 SITE 研究会 委員
2. 愛媛県医師会・松山市医師会 医療情報委員
3. 日本医用画像情報技師専門技師会 監事
4. 特定非営利活動法人 みんなの ICT 理事
5. SDM コンソーシアム 理事

論文・研究発表：

1. 静井 佳和, 中島 英明, 木村 映善, 石原 謙, "オブジェクトストレージに蓄積した医療情報の二次利用の試み, 医療情報学 35(Suppl.), pp. 1288-1291, 2015/11/03 2015.
2. 栗原 幸男, 石田 博, 木村 映善, 合地 明, 近藤 博史, 島井 健一郎, 田中 武志, 中島 典昭, 石川 澄, 石黒 満久, 大原 通宏, 大塚 雅彦, 園田 武治, 高井 康平, "患者プロフィール情報の標準項目構成の検討", in 第 19 回日本医療情報学会春季学術大会-プログラム・抄録集, pp. 104-105, 2015.
3. 栗原 幸男, 石田 博, 木村 映善, 合地 明, 近藤 博史, 島井 健一郎, 中島 典昭, 石川 澄, 石黒 満久, 大原 通宏, 大塚 雅彦, 園田 武治, 高井 康平, "患者プロフィール情報の標準項目構成の検討", 第 19 回日本医療情報学会春季学術大会, pp.104-105, 2015/06/11 2015.
4. 松下 祐子, 岡田 久仁子, 蒲生 祥子, 木村 映善, 石原 謙, "退院時要約監査管理システムの評価", 医療情報学 35(Suppl.), pp. 890-893, 2015/11/03 2015.
5. 木村 映善, 魔 狸, 笹井 崇司, "データ匿名化手法——ヘルスデータ事例に学ぶ個人情報保護", O'Reilly Japan, Inc., 2015.
6. 木村 映善, 菊池 浩明, 佐久間 淳, 千田 浩司, 美馬 正司, "パーソナルデータの行方", 医療情報学 35(Suppl.), pp. 172-173, 2015/11/04 2015.
7. 木村 映善, 石原 謙, "FHIR Terminology Service の実装と評価", 医療情報学 35(Suppl.), pp.910-911, 2015/11/03 2015.
8. 木村 映善, 石原 謙, "Arden Syntax と FHIR を利用した臨床判断支援ロジック記述環境の開発の試み", 医療情報学, vol.35, no.6, pp. 283~296 2015.
9. 木村 映善, "医療分野への人工知能適用に関する研究のトピックス", 愛媛医学, vol.34, no.4, pp. 197-202 2015.
10. 木村 映善, "クラウドへの外部保存について検討すべき事項", 医療情報学 35(Suppl.), pp. 150-153, 2015/11/04 2015.
11. 木村 映善, "正しい DWH 構築と間違った DWH 構築：その分水嶺はどこにあるのか", 月刊新医療, vol.42, no.2, pp. 28-30, 2015/02 2015.
12. 木村 映善, "統合ストレージ環境構築の方策と病院運営に関する利益について", 月刊新医療, vol.42, no.11, pp.24-27, 2015/11 2015.
13. 木村 映善, "医療機関のシステム管理者が考える医用画像領域のシステムとは", 平成 26 年度日本医用画像情報専門技師会主催「医用画像情報の管理・運用における実務者向けセミナー」, 広島, 2015.
14. 岡田 久仁子, 松下 祐子, 蒲生 祥子, 木村 映善, 石原 謙, "電子カルテと連携する退院時要約進捗管理システムの構築", 医療情報学 35(Suppl.), pp. 886-889, 2015/11/03 2015.
15. 安澤 義則, 木村 映善, 小田 直之, 中島 豊, "OpenFlow 技術を利用した事前的経路制御", 医療情報学 35(Suppl.), pp. 754-757, 2015/11/04 2015.
16. 医療経営情報研究所編, 島井 健一郎, 矢口 智子, 南木 由美, 木村 映善, 小林 俊彦, "電子カルテ代行入力マニュアル", 経営書院, 2015.
17. 中井 美穂, 木村 映善, 崎田 智美, 田淵 典子, 石原 謙, "スポットチェックモニタの巡回と設置運用による測定業務の効率の比較検証", in 日本医療マネジメント学会雑誌, pp. 267, 大阪, 2015.

18. 三原 直樹, 真鍋 史朗, 木村 映善, 黒田 知宏, 松村 泰志, "統合文書管理システム(DACS)内文書の秘密分散技術を用いた安全なバックアップ並びに大災害時の診療データの復元に関わる課題報告", 医療情報学 35(Suppl.), pp. 780-782, 2015/11/04 2015.
19. Sumiko Akahori, Koji Uemura, Eizen Kimura, Koji Murao, Hideto Yokoi, "A Clinical Decision Support System for the Admission/Discharge of Patients with Diabetes", Studies in Health Technology and Informatics, vol.210, pp. 990-991, 2015/May/26 2015.
20. Eizen Kimura, Ken Ishihara, "Internal Domain-Specific Language Based on Arden Syntax and FHIR", Studies in Health Technology and Informatics, vol.216, pp. 955, 2015/08/21 2015.
21. Eizen Kimura, Ken Ishihara, "Virtual File System on NoSQL for Processing High Volumes of HL7 Messages", Studies in Health Technology and Informatics, vol.210, pp. 687-691, 2015/May/26 2015.

加藤 匡宏

論文・研究発表：

1. Kato T, Tamura Y, Shimizu E. Counseling with behavioral activation with a youth who described his anguished cries in an on-the-job training journal that he titled Death Note. Bulletin of The Center for Education and Educational Research The Faculty of Education, Ehime University, 33: 195-201, 2015.
2. Saito I, Hitsumoto S, Kato T, et al. Heart Rate Variability, Insulin Resistance, and Insulin Sensitivity in Japanese Adults: The Toon Health Study. J Epidemiol, 25: 583-591, 2015.
3. 山内加奈子, 齊藤功, 加藤匡宏, 谷川武, 小林敏生 地域高齢者の主観的健康感の変化に影響を及ぼす心理・社会活動要因—5年間の追跡研究. 日本公衆衛生雑誌, 62: 1-11, 2015

松尾 芳雄

社会貢献活動：

1. 農業農村工学会支部担当理事, 中国四国支部長, 学会誌担当理事, 学会誌編集委員会専門委員
2. 農業農村工学会農村計画研究部会常任代表幹事
3. 農業農村工学会農業農村情報研究部会運営幹事
4. 愛媛県建設工事総合評価審査委員
5. 愛媛県中山間ふるさと保全対策推進委員会委員長
6. 愛媛県農村環境保全向上活動検討委員会委員長
7. 愛媛県環境情報協議会委員長
8. 愛媛県松野町文化的景観調査指導委員会委員
9. 愛媛県日本型直接支払検討委員会会長
10. 四国防災教育センター専門家養成事業外部評価委員会委員
11. 三菱 UFJ R&C (株) 平成 27 年度 人口減少下における長期的な国土管理方策の調査事業検討会委員

小林 範之

社会貢献活動：

1. 2015年10月22日：農業用ダム耐震診断検討会：愛媛県中予地方局：20名
2. 客員研究員，（財）日本水土総合研究所
3. 建設工事総合評価審査委員会，委員（愛媛県）
4. 史跡松山城整備検討委員会，委員（松山市）
5. 宇和島城保存整備検討委員会，委員（宇和島市）
6. 長期供用ダム研究小委員会，専門委員（農業農村工学会）
7. 農業農村工学会材料施工部会，幹事（農業農村工学会）
8. 日本雨水資源化システム学会，理事（日本雨水資源化システム学会）
9. 日本雨水資源化システム学会編集委員会，委員長（日本雨水資源化システム学会）

論文・研究発表：

1. 吉武美孝，藤原正幸，小林範之：ため池改修設計に資する二,三の浸透課題について：農業農村工学会：水土の知：83(12)，1039-1044：2015年・12月
2. 小林範之，武智正行，田中洋平：地下水位変動がおよぼす地盤卓越振動数への影響について：農業農村工学会：岡山市：2015年9月2日
3. 泉 智揮，川原千奈，中村壮志，小林範之：非負値行列因子分解を用いた道後平野の地下水データマイニング：農業農村工学会：岡山市：2015年9月2日
4. 泉 智揮，中村壮志，小林範之：道後平野の地下水位データへのNMF適用における初期値依存性と基底数の影響：農業農村工学会中国四国支部：広島市：2015年10月7日
5. 田中洋平，小林範之，木全 卓：個別要素法によるEPS破砕片混合土が持つ衝撃吸収性の検討：農業農村工学会中国四国支部：広島市：2015年10月7日

山下 祐一

社会貢献活動：

1. 広島工業大学工学部 非常勤講師 「都市防災工学」「空間情報と災害予測」担当
2. （公社）日本技術士会中国本部 幹事 防災委員会副委員長他
3. （公社）日本地すべり学会関西支部 運営委員
4. （公社）土木学会中国支部 支部活性化WGシニア担当委員
5. （公社）地盤工学会中国支部 マサ土地帯の土砂災害の調査・対策委員会 広島地域幹事
6. 中国地方防災研究会 幹事長
7. （公社）砂防学会 中国支部設立準備委員会委員
8. （一社）建設コンサルタント協会中国支部 防災委員会顧問

論文・研究発表：

1. 檜垣大介ら編集：「土砂災害と防災教育」，執筆「小学生に向けた危険箇所教育」「地域住民に向けた防災教育」「災害後の防災マップ作り」，朝倉書店，2016.2

2. 山下祐一，古川智：平成 26 年 8 月広島土砂災害の実態と災害支援：日本技術士会：第 41 回技術士全国大会（福岡）論文集，pp32-35：2014.11
3. 山下祐一：東日本大震災 3 年後の実態と教訓：日本技術士会近畿本部：第 20 回西日本技術士研究・業績発表年次大会（堺），「技術士と持続可能な地域社会」論文集，pp24-27：2014.11
4. 山下祐一：8.20 広島土砂災害後の防災対策支援：日本技術士会：平成 27 年度（第 33 回）技術士 CPD・技術士業績・研究発表年次大会論文集，pp73-76：2015.6
5. 山下祐一：地域住民に向けた防災教育の実践と 8.20 広島土砂災害後の被災者支援：日本地すべり学会関西支部シンポジウム：大阪市：2016.4
6. 山下祐一，森脇亮，全邦釘，吉井稔雄，矢田部龍一：社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座のアンケート結果について：土木学会四国支部：高知県：2016.5
7. 山下祐一，森脇亮，全邦釘，吉井稔雄，矢田部龍一：社会インフラ老朽化技術者養成講座について：土木学会中国支部：広島市：2016.5
8. 山下祐一，古川智，青原啓詞：8.20 広島土砂災害後の被災者支援～防災マップ作り～：土木学会中国支部：広島市：2016.5

森脇 亮

社会貢献活動：

1. 2016.1.6：愛媛と四国のインフラを真遠流人材育成講座：社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座シンポジウム：愛媛大学防災情報研究センター：愛媛大学南加記念ホール：131 名
2. 2016.1.29：愛媛大学 ME 養成講座について：－安全・安心な国土形成から元気な地方を！－「続：安全な“みち”のために」：岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター：中電ホール：143 名
3. 非常勤講師：放送大学
4. ダム管理フォローアップ委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
5. 堤防決壊に係る調査委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
6. リバーカウンセラー（国土交通省四国地方整備局）
7. 河川・溪流環境アドバイザー（国土交通省四国地方整備局）
8. 四国地方整備局総合評価委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
9. 四国地方整備局総合評価地域小委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
10. 東予港フェリーターミナル事業に関する技術検討委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
11. 愛媛県地方港湾審議会：会長（愛媛県）
12. 愛媛県建設工事総合評価審査委員（愛媛県）
13. 松山市総合評価審査員（松山市）
14. 松山市公営企業局総合評価審査員（松山市）
15. 「環境モデル都市まつやま」推進協議会運営委員会：委員長（松山市）

論文・研究発表：

1. Sweata SIJAPATI, Yoshifumi FUJIMORI and Ryo MORIWAKI, A STUDY ON THE CLASSIFICATION OF CLOUDS USING TIME VARIATION OF THE AMOUNT OF SOLAR RADIATION, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B1 (Hydraulic Engineering), Vol. 72, No. 4, I_103-I_108, 2016.
2. 藤森祥文・Thapa Chheetri Deepak Bikram・Sijapati SWEATA, 俊野和恵・森脇 亮, 解析雨量を用いた降雨の地域特性－松山平野を対象とした事例研究－, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.72, No.4, I_235-I_240, 2016.
3. 森脇 亮, 都市におけるフラックス観測 解説シリーズ「都市気象学の体系化に向けた最近の研究から」, 水文・水資源学会誌, Vol. 29 (2016) No. 1 p. 57-67
4. Deepak Bikram Thapa Chhetri, Moriwaki, R., Analysis of cloud properties in the Matsuyama plain using downward solar radiation dataset from a geostationary satellite, 9th International Conference on Urban Climate, online available, 2015.
5. Sweata Sijapati, Moriwaki, R., Urban dry island phenomenon and its impact on cloud base level and solar radiation, 9th International Conference on Urban Climate, online available, 2015.
6. Herlin Verina:松山平野における海陸風の侵入挙動と大気汚染物質濃度の関係に関する研究:平成 27 年度土木学会四国支部技術研究発表会:高松:2015.5
7. Deepak Bikram Thapa Chhetri:実測日射量と衛星日射量を用いた松山平野の日射量分布に関する研究:平成 27 年度土木学会四国支部技術研究発表会:高松:2015.5
8. 重松和恵:日射量の時間変動を利用した雲の分類に関する研究:平成 27 年度土木学会四国支部技術研究発表会:高松:2015.5
9. 藤森祥文:松山平野における日射量の多地点観測から見られた雲の時空間特性と降水との関係:平成 27 年度土木学会四国支部技術研究発表会:高松:2015.5
10. 相原研吾:太陽光パネルの日射センサーとしての利用可能性に関する研究:平成 27 年度土木学会四国支部技術研究発表会:高松:2015.5
11. 宮尾渉:日射量の直散分離に関する検討及び新しい直散分離手法の提案:平成 27 年度土木学会四国支部技術研究発表会:高松:2015.5
12. 尾崎智洋:自己組織化マップを用いた乱流解析手法の研究:平成 27 年度土木学会四国支部技術研究発表会:高松:2015.5
13. 大石直輝:都市パラメータの詳細化が松山平野の気象シミュレーションに及ぼす影響:平成 27 年度土木学会四国支部技術研究発表会:高松:2015.5

全 邦 釘

社会貢献活動：

1. 2015.9.4：「アセットマネジメント」，特定非営利活動法人 愛媛県建設技術支援センター，西予市役所（25名）
2. 2016.1.21：「橋梁修繕研修会」，国土交通省四国地方整備局，四国中央市消防防災センター（20名）
国土交通省四国地方整備局河川・溪流環境アドバイザー（国土交通省）

3. 構造物の長寿命化技術に関する検討小委員会, 幹事・WG 長, 土木学会鋼構造委員会
4. 応用力学委員会, 地区幹事, 土木学会
5. 四国地域橋梁管理委員会, 委員, 国土交通省
6. 2015, 年次論文奨励賞, 日本コンクリート工学会

論文・研究発表:

1. 全 邦釘, 秋山 大誠, 真鍋 祐輔, "ニューラルネットワークを用いた腐食鋼板の座屈耐荷力推定", 土木学会論文集 A2, Vol.71, No.2, pp.I_39-I_47. (2015)
2. P. Chun, H. Yamashita, and S. Furukawa, "Bridge Damage Severity Quantification Using Multipoint Acceleration Measurement and Artificial Neural Networks", Shock and Vibration, vol. 2015, Article ID 789384, doi:10.1155/2015/789384. (2015)
3. 蔵本 直弥, 全 邦釘, "決定木によるアスファルト舗装ひび割れの検出", 土木学会論文集 A2, Vol.71, No.2, pp.I_823-I_830. (2015).
4. 全 邦釘, 井後 敦史, "Random Forest によるコンクリート表面ひび割れの検出", 土木学会論文集 F3, Vol.71, No.2, pp.I_1-I_8. (2015)
5. 全 邦釘, 橋本 和明, "アスファルト舗装撮影画像からのひび割れ半自動検出システムの開発", 土木学会論文集 E1, Vol.71, No.3, pp.I_31-I_38. (2015)
6. 全 邦釘, "スーパーグローバルハイスクール事業でのインフラ維持管理教育の試み", 土木学会論文集 H, Vol.71, No.1, pp.105-113. (2015)
7. 全 邦釘, 井後 敦史, 橋本 和明, "画像解析によるひび割れ検出とハフ変換による型枠跡および P コン跡の同定", コンクリート工学年次論文集, Vol. 37, No. 1, pp.1777-1782. (2015)
8. 秋山 大誠, 全 邦釘, 大賀 水田生, 川口 隆, "腐食フランジの残存圧縮挙動に関する研究", 土木学会四国支部技術研究発表会, I-5. (2015)
9. 真鍋 祐輔, 横川 達哉, 大賀 水田生, 全 邦釘, "腐食鋼板の圧縮試験および数値解析による残存強度評価手法の提案", 土木学会四国支部技術研究発表会, I-8. (2015)
10. 石水 貴久, 大賀 水田生, 全 邦釘, "トラス部材の損傷同定手法の数値的検討", 土木学会四国支部技術研究発表会, I-17. (2015)
11. 熊岡 幸司, 大賀 水田生, 全 邦釘, "ニューラルネットワークによる I 型鋼の損傷同定", 土木学会四国支部技術研究発表会, I-19. (2015)
12. 蔵本 直弥, 宮内 雅弘, 大賀 水田生, 全 邦釘, "振動計測と機械学習を用いた損傷同定に関する基礎的研究", 土木学会四国支部技術研究発表会, I-21. (2015)
13. 井後 敦史, 大賀 水田生, 全 邦釘, "様々なアスファルト舗装で適用可能な画像解析によるひび割れ検出", 土木学会四国支部技術研究発表会, I-23. (2015)
14. 全 邦釘, 秋山 大誠, 真鍋 祐輔, "ニューラルネットワークを用いた腐食鋼板の座屈耐荷力推定", 第 18 回応用力学シンポジウム, 100016. (2015)
15. 蔵本 直弥, 全 邦釘, "決定木によるアスファルト舗装ひび割れの検出", 第 18 回応用力学シンポジウム, 100029. (2015)

榊原 正幸

社会貢献活動：

1. 2016.9.27～9.30 : 西条環境セミナー : 愛媛大学主催 : 西条市石鎚ふれあいの里
2. 松山市文化財保護審議会 : 松山市文化財保護審議会委員 : 松山市教育委員会
3. 松山市土壌汚染対策専門委員会 : 松山市土壌汚染対策専門委員 : 松山市環境部環境指導課
4. 松山市環境審議会 : 松山市環境審議会委員 : 松山市環境部環境政策課
5. 西予市総合計画審議会 : 西予市総合計画審議会委員 : 西予市
6. 西予市文化的景観調査委員会 : 西予市文化的景観調査委員会委員 : 西予市教育委員会
7. 平成 27 年度愛媛県立松山東高等学校スーパーグローバルハイスクール (SGH) 事業 : SGH 事業課題研究講師 : 愛媛県立松山東高等学校
8. 四国西予ジオパーク推進協議会アドバイザー : 四国西予ジオパーク推進協議会 : 西予市
9. 2015 年 12 月 19 日 : 第 15 回日本地質学会四国支部総会・講演会優秀講演賞, 榊原正幸研究室 末岡裕理受賞, 日本地質学会四国支部

論文・研究発表：

1. Yuri Sueoka, Masayuki Sakakibara and Koichiro Sera, Heavy metal behavior in Lichen-Mine waste interactions at an abandoned mine site in Southwest Japan. *Metals*, 5, 1591-1608, 2015, (査読有り)
2. Yayu Indriati Arifin³, Masayuki Sakakibara and Koichiro Sera, Impacts of Artisanal and Small-Scale Gold Mining (ASGM) on Environment and Human Health of Gorontalo Utara Regency, Gorontalo Province, Indonesia. *Geosciences*, 5, 160-176, 2015, (査読有り)
3. 榊原正幸, 大川佳子, 迫田昌敏, 世良耕一郎, 佐野 栄 : カヤツリグサ科マツバイによる重金属汚染された坑廃水のファイトレメディエーション. 第 21 回 NMCC 共同利用研究成果発表会. 岩手. 2015 年 5 月
4. 榊原正幸, 大川佳子, 迫田昌敏, 山口 勉 : マツバイマツ浮島による重金属に富む廃止鉱山坑廃水のファイトレメディエーション. 第 21 回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会. 福岡. 2015 年 6 月
5. Nurfitri A. G., Sakakibara M., Sustainable Cultivation Method for Phytoremediation of Heavy Metal-Polluted water by Aquatic Macrophyte *Eleocharis acicularis*. 第 21 回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会. 福岡. 2015 年 6 月
6. 榊原正幸, 大川佳子, 迫田昌敏 : 重金属に富む休廃止鉱山坑廃水のファイトレメディエーション. 平成 27 年度資源・素材学会秋季大会, 企画講演, JOGMEC における自然力活用型坑廃水処理技術開発の進展. 松山. 2015 年 9 月
7. 榊原正幸 : 重金属汚染された水・土壌のファイトレメディエーション技術の現状と課題. 平成 27 年度資源・素材学会秋季大会, 企画講演, 土壌汚染対策の新展開—新規規制・自然由来物質への対応—. 松山. 2015 年 9 月
8. Sakakibara M: Phytoremediation of toxic elements-polluted water and soils by aquatic macrophyte *Eleocharis acicularis*. ICBS2015 (The 4th International Conference on Biological

Science), Jogjakarata, Indonesia. September 2015

9. Sakakibara M., Takehara A., Sano S., Sato Y. Phytoremediation of radioactive cesium-polluted soil and water by *Eleocharis acicularis*. 2015 International Joint Symposium of IEGS (Korea) and CERI (Japan). Busan, Korea. October 2015
10. Sueoka Y., Sakakibara M., and Sera K., Heavy metal behavior in lichen-smelting slag interactions. 2015 International Joint Symposium of IEGS (Korea) and CERI (Japan). Busan, Korea. October 2015
11. 中村千怜, 榊原正幸, Idham Andri Kurniawan, 中期更新世由布川火砕流堆積物におけるマグマ混合・混交. 第15回日本地質学会四国支部総会・講演会. 高知. 2015年12月
12. 大川佳子, 榊原正幸, フローティング栽培法を用いた重金属に富む坑廃水のカヤツリグサ科マツバイによるファイトレメディエーション. 第15回日本地質学会四国支部総会・講演会. 高知. 2015年12月
13. 田口菜奈, Nurfitri A. G., 榊原正幸, 世良耕一郎, 小規模人力金採掘によるスラウェシ島北部ボネ川の水銀汚染. 第15回日本地質学会四国支部総会・講演会. 高知. 2015年12月
14. 末岡裕理, 榊原正幸, 佐野 栄, 世良耕一郎, 重金属汚染された廃止鉱山地域に自生する地衣類の土壤重金属汚染環境指標としての有用性. 第15回日本地質学会四国支部総会・講演会. 高知. 2015年12月
15. Hendra P., , Sakakibara M., Sueoka, Y., and Sera, K., Potential ability of *Pteris cretica* as bioindicator and hyperaccumulator in an abandoned mine site, Southwest Japan. 第15回日本地質学会四国支部総会・講演会. 高知. 2015年12月
16. Idham A. K., Sakakibara M., Emmy S., Petrological monitoring of Sakurajima volcanic ash on 2013 eruption: Condition of magma conduit. 第15回日本地質学会四国支部総会・講演会. 高知. 2015年12月
17. Nurfitri A. G., Sakakibara M., Mohamad J., Ability of treated kapok (*Ceiba pentandra*) fiber for removal water turbidity. 第15回日本地質学会四国支部総会・講演会. 高知. 2015年12月

二神 透

社会貢献活動：

1. 2015.5.13, 「南海トラフ巨大地震に備えて～自主防災組織の役割～」, 東温市自主防災組織連絡協議会「防災講演会」, 東温市, 東温市役所4階 大会議室, 34名
2. 2015.6.16, 「地域で起こりうる災害をイメージするための防災教育の在り方」, 平成27年度防災管理担当者研修会, 愛媛県, 愛媛県生涯学習センター
3. 2015.6.17, 「地域で起こりうる災害をイメージするための防災教育の在り方」, 平成27年度防災管理担当者研修会, 愛媛県, 愛媛県総合科学博物館
4. 2015.6.18, 「地域で起こりうる災害をイメージするための防災教育の在り方」, 平成27年度防災管理担当者研修会, 愛媛県, 愛媛県歴史文化博物館
5. 2015.6.22, 「大規模災害に備えて, 自助・共助の大切さ」, 俵津地区防災・減災講演会, 俵津地区地震津波対策委員会, 俵津公民館大ホール, 100名

6. 2015.8.20,「耐震診断と補強」「都市防災」,平成 27 年度愛媛大学公開講座「防災士養成講座」,愛媛大学防災情報研究センター,松山市保健所・消防合同庁舎,184 名
7. 2015.8.22,「耐震診断と補強」「都市防災」,平成 27 年度愛媛大学公開講座「防災士養成講座」,愛媛大学防災情報研究センター,松山市保健所・消防合同庁舎,154 名
8. 2015.9.17,「南海トラフ巨大地震への心構え」,南海トラフ地震研修会及び災害に強いまちづくり活動検討会,愛媛県,太陽石油(株)四国事業所本館 第一会議室
9. 2015.9.29,「事業継続計画(BCP)の重要性と作成時のポイントについて」,災害対策研修会,(社)愛媛県 LP ガス協会,東京第一ホテル松山 コスモホール,80 名
10. 2015.10.1,「科学・防災講座」,総合的な学習の時間「職業科」,松山市立小野中学校,松山市立小野中学校,19 名
11. 2015.10.8,「科学・防災講座」,総合的な学習の時間「職業科」,松山市立小野中学校,松山市立小野中学校,19 名
12. 2015.10.17,「耐震診断と補強」「都市防災」,平成 27 年度愛媛大学公開講座「防災士養成講座」,愛媛大学防災情報研究センター,松山市保健所・消防合同庁舎,122 名
13. 2015.11.4,「南海トラフ巨大地震にそなえて」,総合的な学習の時間「みんなで守るぞ かがやく命(防災教育)」,松山市立荏原小学校,松山市立荏原小学校 3 階 マルチルーム,85 名
14. 2015.11.8,「南海トラフ巨大地震にそなえて～自主防災組織の役割～」,東温市横河原区自主防災会「防災講演会」,東温市横河原区自主防災会,東温市横河原公民館 2 階
15. 2015.11.15,「大規模自然災害に備える～その時 菊間では～」,防災・減災講演会,愛媛県,今治市緑の広場公園総合体育館
16. 2015.11.27,「南海トラフ巨大地震や地域の災害に備える～地域との連携を核として～」,平成 27 年度全国社会福祉事業団協議会中国・四国ブロック研修会,(福)愛媛県社会福祉事業団,愛媛県身体障害者福祉センター2 階 大会議室
17. 2015.12.6,「南海トラフ巨大地震への備え 減災カルテについて」,神拝校区防災教育,神拝校区連合自治会 神拝公民館,神拝公民館 2 階 ホール,50 名
18. 2015.12.9,「自然災害への備えと今後の地域での防災活動」,住民避難訓練及び事後検証会,愛媛県,亀岡学習センター
19. 2015.12.10,「大地震時における火炎延焼シミュレーション及び防災教育について」,台内職員向け講演会,松山地方気象台,松山地方気象台会議室
20. 2015.12.26,「これからの地域の防災計画の進め方について」,防災セミナーin 四国中央市,愛媛大学防災情報研究センター・四国中央市,四国中央市福祉会館 4 階多目的ホール,100 名
21. 2016.1.14,「みどりによる市街地内の延焼遅延効果の発揮方法」,平成 27 年度都市緑化技術研修会,公益財団法人都市緑化機構,国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 4 階 401 号室 60 名
22. 2016.1.31,「南海トラフ巨大地震や地域の災害に備える～地域との連携を核として～」,平成 27 年度寒川自治会地域防災対策と地域連携についての研修会,寒川公民館,四国中央市寒川公民館 2 階 大会議室
23. 2016.2.3,「大規模災害への日頃からの備え及び発生時の行動・津波からの避難のあり方」,狩江地区

防災講演会，狩江自主防災クラブ，渡江集会所

24. 2016.2.4, 「大規模災害への日頃からの備え及び発生時の行動・津波からの避難のあり方」, 狩江地区防災講演会, 狩江自主防災クラブ, 狩江集会所
25. 2016.2.27, 「これからの地域の防災リーダーに求められるもの」, 平成 27 年度えひめ防災インストラクター養成講座, 愛媛県, 東予地方局 7 階大会議室, 50 名
26. 2016.3.5, 「これからの地域の防災リーダーに求められるもの」, 平成 27 年度えひめ防災インストラクター養成講座, 愛媛県, 南予地方局 7 階大会議室, 50 名
27. 2016.3.6, 「これからの地域の防災リーダーに求められるもの」, 平成 27 年度えひめ防災インストラクター養成講座, 愛媛県, 東予地方局 7 階大会議室, 50 名
28. 2016.3.16, 「上島町地域防災計画の改正について」, 上島町防災会議, 上島町, 上島町消防庁舎 2 階大ホール
29. 愛媛県国土利用計画審議会, 委員
30. 愛媛経済同友会地域防災対策委員会, アドバイザー (愛媛経済同友会)
31. 河川整備計画専門委員会, 委員 (愛媛県)
32. 愛媛県災害情報システム構築・運用保守業務委託事業者選定審査会, アドバイザー
33. 平成 27 年度学校防災教育推進委員会, 委員 (愛媛県)
34. 平成 27 年度学校防災アドバイザー (愛媛県)
35. 地域・企業連携南海トラフ地震減災対策事業 (今治市菊間地区) におけるアドバイザー (愛媛県)
36. 西予市同報系防災行政無線デジタル整備事業調査・実施設計委託業者選定委員会, 委員
37. 平成 27 年度災害に強いまちづくり検討会, 委員 (四国地方整備局)
38. 内閣府が実施する平成 27 年度地区防災計画調査業務の中の「五明地区」, 「高浜地区」の現地アドバイザー ((財) 関西情報センター)

論文・研究発表：

1. 二神透, 國方祐希: 地区防災計画のための大震時火災熱リスク分析システムの開発と適用研究, 土木学会論文集 F6 (安全問題), 安全問題・論文集 8 頁 2015.
2. 國方祐希, 二神透: 地区防災計画のための避難場所安全評価システムの開発と適用研究, 第 47 回土木計画学講演集, CD-ROM6 頁, 2015.
3. 國方祐希, 二神透: 大震火災延焼時の避難場所の安全評価システムの開発と適用研究, 平成 27 年度土木学会四国支部技術研究発表会, 香川大学, 2015 年 5 月 23 日.
4. 井出皓介, 二神透: 松山市を対象としたドクターカー利用による救命効果分析に関する研究, 平成 27 年度土木学会四国支部技術研究発表会, 香川大学, 2015 年 5 月 23 日.
5. 今西桃子, 二神透: 地区防災計画のための津波避難シミュレーションの開発と適用研究, 平成 27 年度土木学会四国支部技術研究発表会, 香川大学, 2015 年 5 月 23 日.
6. 國方祐希, 二神透: 地震火災熱リスク算定システムの開発と適用研究, 第 10 回南海地震四国地域学術シンポジウム, サンポートホール高松, 2016 年 1 月 14 日.

岡村 未対

社会貢献活動：

1. 「Liquefaction-induced damage to river levees by recent earthquakes in Japan and development of an innovative countermeasure technique」, 2015年4月, インドネシア地盤工学会・バンドン工科大学土木工学部特別講演会
2. 「ネパールゴルカ地震被害速報」, 2015年5月, FLIP 研究会総会
3. 「カトマンズでの液状化」, 2015年6月, 地盤工学会災害調査団報告会
4. 「Soil liquefaction」 2015年9月, ネパール地震工学研究所 NSET 特別講演会
5. 「Geotechnical centrifuge technology」, 2015年9月, ハサヌディン大学工学部特別講演会
6. 「台風17号, 18号による鬼怒川破堤箇所調査速報と我が国の河川堤防の現状・課題」, 2015年9月, 愛媛大学防災情報研究センター災害報告会
7. 「Soil liquefaction in Kathmandu」, 2015年10月, JST J-RAPID(Nepal) Kick off symposium
8. 社会資本整備審議会道路分科会, 委員 (国土交通省道路局)
9. 堤防研究会, 委員 (国土交通省 水資源国土保全局)
10. 堤防研究会耐震 WG, 委員 (国土交通省 水資源国土保全局)
11. 河川堤防技術に関する検討会, 委員 (国土交通省水管理・国土保全局)
12. 社会インフラのモニタリング技術活用推進検討委員会, 委員 河川堤防 WG (国土交通省大臣官房)
13. 未来を切り拓く技術開発のあり方検討WG, 委員 (国土交通省大臣官房)
14. 四国地方整備局総合評価地域小委員会, 委員 (国土交通省四国地方整備局)
15. Technical Committee 203 - Earthquake Geotechnical Engineering and Associated Problems, 委員 (国際地盤工学会)
16. Technical Committee 303 - Coastal and river disaster mitigation and rehabilitation 委員会, 委員 (国際地盤工学会)
17. International Journal of Physical Modelling in Geotechnics 編集委員会, 委員 (国際地盤工学会)
18. Asian Technical Committee 3 - Geotechnology for Natural Hazards, 委員 (地盤工学会)
19. 地盤工学会四国支部, 副支部長 (地盤工学会)
20. 土木学会アジア土木学協会連合協議会担当委員会, 幹事 (土木学会)
21. 土木学会四国支部 四国ブロック南海地震研究委員会, 幹事 (土木学会)
22. 土木学会地盤工学委員会堤防小委員会, 委員長 (土木学会)
23. (財)FLIP 研究会, 顧問
24. Air-Des 工法研究会, 顧問
25. ネパールエンジニアリングカレッジ客員教授

論文・研究発表：

1. Narayan P. Marasini and Mitsu Okamura: "Liquefaction Potential Analysis and Possible Remedial Measure for Existing Structure in Kathmandu Valley" International Journal of Landslide and Environment, Vol.2, No.2&3, pp.32-44, (2015.4)
2. 渡邊翔太, 岡村未対: 「地盤の不飽和化による地中構造物の液状化対策効果に関する研究」, 土木学会

- 四国支部 第 21 回技術研究発表会, pp.125-126 (2015.5)
3. 伊藤公孝, 岡村未対: 「外水の浸透による微小な堤体表面変位を基にした浸潤面の予測可能性検討」, 土木学会四国支部 第 21 回技術研究発表会, pp.127-128 (2015.5)
 4. 小阪佳平, 岡村未対: 「不飽和状態で析出した炭酸カルシウムが砂の強度・変形特性に及ぼす影響」, 土木学会四国支部 第 21 回技術研究発表会, pp.129-130 (2015.5)
 5. 陣内尚子, 岡村未対: 「東北地方太平洋沖地震における止水矢板の堤体被害低減効果の検討」, 土木学会四国支部 第 21 回技術研究発表会, pp.131-132 (2015.5)
 6. Narayan Marasini and Mitsu Okamura: "Air injection to mitigate liquefaction under light structures", *International Journal of Physical Modelling in Geotechnics*, Volume15, Issue3, pp.129-140, (2015.8)
 7. Minson Simatupang, Yoshihira Kosaka and Mitsu Okamura: "Effects of Degree of Saturation on Liquefaction Resistance of Sand Improved with Enzymatic Calcite Precipitation", *Proc. the 2nd Makassar International Conference on Civil Engineering (MICCE 2015)*, Makassar, Indonesia, 11-12, (2015.8)
 8. 高橋章浩, 岡村未対: 河川堤防の耐震性能評価, 地盤工学会誌, Vol.63, No.9, pp.6-9, (2015.9)
 9. 岡村未対: 堤体内の比較的薄い飽和砂質土層の液状化判定法, 地盤工学会誌, Vol.63, No.9, pp.18-21, (2015.9)
 10. 小阪佳平, 岡村未対: 炭酸カルシウム析出時の飽和度の違いが液状化強度特性に及ぼす影響, 第 50 回地盤工学研究発表会, pp.605-606, (2015.9)
 11. Tamia Triandini, Mitsu Okamura: " Numerical Simulation to Validate the Effectiveness of Countermeasure to Prevent Damage due to Liquefaction inside the River Dike, 第 50 回地盤工学研究発表会, pp.1065-1066, (2015.9)
 12. 伊藤公孝, 岡村未対: 外水の浸透による微小な堤体表面変位と内部状態の関係に関する実験, 第 50 回地盤工学研究発表会, pp.1081-1082, (2015.9)
 13. 山根信幸, 藤原斉郁, 矢部浩史, 大内正敏, 中園康平, 紙田直充, 岡村未対: 空気注入不飽和化工法の高速度道路盛土への適用性検討(その 5) 空気注入実験の比較, 第 50 回地盤工学研究発表会, pp.1089-1090, (2015.9)
 14. 大石雅彦, 藤原斉郁, 居場博之, 矢部浩史, 曾根照人, 内田純二, 岡村未対: 空気注入不飽和化工法の高速度道路盛土への適用性検討(その 6) 事後解析, 第 50 回地盤工学研究発表会, pp.1091-1092, (2015.9)
 15. 内田純二, 藤井直, 藤原斉郁, 居場博之, 矢部浩史, 橋本欣也, 岡村未対: 空気注入不飽和化工法の高速度道路盛土への適用性検討(その 7) 事後調査と適用性検討のまとめ, 第 50 回地盤工学研究発表会, pp.1093-1094, (2015.9)
 16. 渡邊翔太, 岡村未対: 地盤の不飽和化による地中構造物の浮き上がり対策効果, 第 50 回地盤工学研究発表会, pp.1619-1620, (2015.9)
 17. 白可, 飛田哲男, 岡村未対, 竹村次朗, 井合進: 液状化地盤の変形挙動に関する拡張型相似則の適用性に関する一斉試験, 第 50 回地盤工学研究発表会, pp.1875-1876, (2015.9)
 18. Fred Nelson, Mitsu Okamura: " Increase in apparent liquefaction resistance due to drainage

- for a thin saturated layer”, 第 50 回地盤工学研究発表会, pp.1065-1066, (2015.9)
19. Narayan Marasini, Mitsu Okamura and Ryota Kasatani: “Numerical analysis to evaluate the change in degree of saturation at different seepage pressure on partially saturated soil”, 第 50 回地盤工学研究発表会, pp.1953-1954, (2015.9)
 20. Mitsu Okamura, Netra P. Bhandary, Shinichiro Mori, Narayan Marasini, Hemanta Hazarika: “Report on a reconnaissance survey of damage in Kathmandu caused by the 2015 Gorkha Nepal earthquake”, Soil and Foundation, Vol.55, Issue5, pp.1015-1029, (2015.10)
 21. Minson Simatupang, Mitsu Okamura: “Effects of Confining Pressure on Liquefaction Resistance of Sand Improved with Enzymatic Calcite Precipitation”, 平成 27 年度地盤工学会四国支部技術研究発表会, (2015.11)
 22. Fred Charles Nelson, Mitsu Okamura: “Increase in liquefaction resistance due to volumetric strain during shaking”, 平成 27 年度地盤工学会四国支部技術研究発表会, (2015.11)
 23. 陣内尚子, 岡村未対: 「東日本大震災で被災した河川堤防 28 断面を対象とした ALID による変形解析」, 平成 27 年度地盤工学会四国支部技術研究発表会, (2015.11)
 24. M. Okamura, F. C. Nelson: “Liquefaction Assessment of Thin Sand Layers with Partially Drained Condition”, 6th International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering (6ICEGE), Christchurch, New Zealand, (2015.11)
 25. Narayan Prasad Marasini, Mitsu Okamura: “Numerical simulation of centrifuge tests to evaluate the performance of desaturation by air injection on liquefiable foundation soil of light structures”, Soil and Foundation, Vol.55, Issue6, pp.1388-1399, (2015.12)

森 伸一郎

社会貢献活動:

1. 2015 年 5 月 13 日: 「ネパール地震被害調査報告会」: 土木学会: 東京大学生産技術研究所・コンベンションホール
2. 2015 年 5 月 18 日: 「ネパール地震被害調査報告会」: 愛媛大学防災情報研究センター: 愛媛大学・南加記念ホール
3. 2015 年 5 月 29 日: 「自然災害における災害リスク対策と災害心理」: 「登記測量研修会 2015」: 岩手県公共嘱託土地家屋調査士協会: 岩手県民情報交流センター
4. 2015 年 6 月 19 日: 「南海トラフ巨大地震への備えと不動産登記の役割」: 大分県公共嘱託土地家屋調査士協会: 大分県・コンパルホール
5. 2015 年 8 月 7 日: 「警察と防災・減災」: 愛媛県警察本部: 愛媛県警察学校
6. 2016 年 2 月 16 日: 「台湾南部地震被害調査報告」: 愛媛大学防災情報研究センター: 愛媛大学社会連携推進機構 2 階 研修室
7. 2016 年 3 月 8 日: 「台湾地震被害調査報告会」: 土木学会: 東京大学生産技術研究所・コンベンションホール
8. 2015 年 5 月 1 日: 「ネパール大地震 愛媛大が調査団派遣」: 毎日新聞掲載
9. 2015 年 5 月 3 日: 「ネパール 地盤影響で局所的に揺れ強まったか」: NHK ニュース出演

10. 2015年5月3日：「ネパール大地震 長周期の揺れで被害拡大」：NHK ニュース出演
11. 2015年5月6日：「(ネパール)れんが造りの建物 上階に強い力で倒壊か」：NHK ニュース出演
12. 2015年5月7日：「被災建物の調査結果 ネパール側に報告」：NHK ニュース出演
13. 2015年6月18日：「ネパール復興の課題議論」：神戸新聞掲載
14. 2015年7月14日：「西予で震度5弱愛媛大2氏に聞く」：愛媛新聞掲載
15. 2015年10月1日：「学校で地震観測 防災意識高めて」：愛媛新聞掲載
16. 2015年10月12日：「ゲームで減災考える 愛南でワークショップ」：朝日新聞掲載
17. 2015年10月14日：「カードゲームで減災へ」：愛媛新聞掲載
18. 2015年10月27日：「老朽化点検方法技術者50人学ぶ」：愛媛新聞掲載
19. 2015年12月19日：「橋の管理 大切さ実感」：愛媛新聞掲載：あいテレビ ニュースキャッチあい
20. 2016年1月12日：「松山・由良港道路沈下 県、くい点検記録なし」：愛媛新聞掲載
21. 2016年3月4日：「地震に、備えよ」：毎日新聞掲載
22. 2016年3月5日：「愛南町 南海トラフ地震に備え」：愛媛新聞掲載
23. 2016年3月10日：テレビ愛媛 みんなのニュースえひめ
24. 2016年3月11日：「震災5年 住民意識「見える化」で減災に」：あいテレビ ニュースキャッチあい
25. 上島架橋（岩城島）技術検討委員会（委員）：愛媛県
26. 伊方原子力発電所環境安全管理委員会（委員）：愛媛県
27. 研究成果最適展開支援プログラム専門委員：独立行政法人 科学技術振興機関
28. 愛媛県橋梁長寿命修繕計画評価員：愛媛県
29. 「統合化地域防災実践 Web サービスの構築」運営委員：独立行政法人 防災科学研究所
30. 平成27年度四国ブロック南海地震研究委員会（委員）：公益社団法人土木学会
31. 四国地域橋梁管理委員会（委員）：国土交通省四国地方整備局
32. 構造物ヘルスマニタリングにおける意思決定手法研究：公益社団法人土木学会

曲田 清維

社会貢献活動：

1. 2015.8.9：夏の建築学校日土小 2015 「日土小学校の保存再生の経緯」（日本建築学会 八幡浜市日土小学校 50名）
2. 2015.11.22：「三津の魅力が生業を呼ぶ」愛媛大学 COC 公開講座 in 松山（愛媛大学社会連携推進機構 松山市三津支所 70名）
3. 2016.2.21：鬼北町庁舎保存再生報告・見学会講演（鬼北町 鬼北町役場 120名）松山市坂の上の雲ミュージアム指定管理者選定審議会 審議会会長
4. 内子町伝統的建造物群保存地区保存審議会(内子町)
5. 西予市伝統的建造物群保存地区保存審議会(西予市)
6. 松山市美しい街並みと賑わい創出事業審査委員会(松山市)
7. 銀天街L字地区市街地再開発事業基本計画作成業務委託(松山市)
8. 中央商店街周辺地区公民一体型空間形成検討委託業務(松山市)

9. 銀天街 L 字地区再開発検討専門部会(松山市)
10. 松山駅周辺笑顔あふれるまちづくり推進協議会(松山市)
11. 八幡浜市民会館跡地利用等検討委員会(八幡浜市)
12. 鬼北町庁舎保存再生監修委員会(鬼北町)
13. 愛媛県建設工事総合的評価審査委員会(愛媛県)
14. 愛媛県建築士審査委員会 (愛媛県)
15. 愛媛大学教育学部非常勤講師(愛媛大学)
16. 愛媛大学教育学生支援機構非常勤講師(愛媛大学)

論文・研究発表：

1. 曲田清維，花田佳明ほか：日土小学校の保存と再生 鹿島出版会 2016. 2. 28

松本 啓治

社会貢献活動：

1. 2015.6.6：愛媛県技術士会講演
2. 2015.10.22：四国地区青年技術士会講演
3. 2016.1.21：高齢者大学講演
4. 道後温泉経営基本計画策定業務委託（松山市）

千代田 憲子

社会貢献活動：

1. 2015.9.4：講評：えひめサインフォーラム in 松山：愛媛県，松山市，愛媛県屋外広告美術商業組合：松山市・市役所本館大会議室：約100名
2. 2016.1.11-15,18-22：景観，まちづくり，公共デザイン：P-up! MORNING トラフィック・インフォメーション：FM 愛媛ラジオ:松山市
3. 景観施策アドバイザー：国土交通省四国地方整備局
4. 愛媛県景観形成アドバイザー：愛媛県
5. 愛媛県地方港湾審議会：委員：愛媛県
6. 愛媛県屋外広告物審議会：委員：愛媛県
7. 愛媛県道路懇談会：委員：愛媛県
8. 愛顔つなぐえひめ国体・愛媛大会広報・県民運動専門委員会デザイン部会：部会長
9. 松山市景観審議会：委員長：松山市
10. 松山市都市景観景観賞選考部会：委員：松山市
11. 今治市景観まちづくり会議：委員長：今治市
12. 非常勤講師：久留米大学
13. 四国八十八景選定部会：委員：四国八十八景実行委員会
14. 松山アーバンデザインセンター非常勤スタッフ：プロジェクトアドバイザー：松山アーバンデザインセンター(UDCM)

15. 重信川河口ワーキング部会：委員：重信川の自然をはぐくむ会
16. 公益社団法人愛媛県建築士会建築甲子園委員会：委員：公益社団法人愛媛県建築士会
17. 愛媛県文化財保護審議会：委員：愛媛県
18. 愛媛県伝統的特産品産業振興対策委員会：委員長：愛媛県
19. 愛媛県高等学校総合文化祭 美術・工芸部門作品選考会：委員：愛媛県高等学校文化連盟
20. JA 共済小・中学校交通安全ポスターコンクール愛媛県審査会：委員長：JA 共済連愛媛
21. 愛媛広告賞：審査員：愛媛広告協会
22. H27 年度松山ブランド新製品コンテスト「NEXT ONE」ロゴマーク選考委員会：委員：松山商工会議所

論文・研究発表：

1. 大橋淳史・和田敬行・隅田学・藤田昌子・石塚真子・千代田憲子：伝統の継承プログラムを通じたグローバルマインドの育成と成果報告 II：愛媛大学教育実践総合センター紀要：第 33 号・1-20：2015・7
2. 千代田憲子：沿道景観の貢献要素に関する考察-3 成留屋を例に：愛媛大学教育学部紀要：第 62 巻，221-230：2015・10
3. 千代田憲子：陰翳'15-I：状況 2015 展：ルーチェベルデ・オープンスペース(松山)：88×197×5cm(2 枚組)：2015・12.6-19

松村 暢彦

社会貢献活動：

1. 交通エコロジーモビリティ財団，学校教育におけるモビリティ・マネジメント教育の必要性について，2016.03.08
2. 生駒市職員研修会，モビリティ・マネジメントから学ぶ地域問題解決のアプローチ，2016.01.22
3. 川西市大和自治会，買い物から地域社会を考える，2015.11.01
4. 愛媛障害フォーラム，誰もが使いやすい夢の駅と駅周辺開発について，2015.10.31
5. 吹田市・豊中市千里ニュータウン連絡会議，千里の市民活動のはじまりの物語，2015.08.29
6. 愛媛県地域公共交通連絡協議会，公共交通の利用促進ーモビリティ・マネジメントのすすめー，2015.08.26
7. 済美高等学校，デザインするということ，2015.08.24
8. 夏休み子ども体験学習講座，吹田のものづくりからまちの仕組みを考える，2015.08.19
9. 平成 27 年度東温市夏季教職員研修講座，モビリティ・マネジメント教育及びシティズンシップ教育の可能性，2015.07.27
10. 平成 27 年度川西市夏季教職員研修講座（社会科教育研修），モビリティ・マネジメント教育及びシティズンシップ教育の可能性，2015.07.29
11. （財）計量計画研究所 MM 技術研修，学校 MM に関わる基礎技術，2015.07.30
12. 財団法人全国市町村研修財団，超高齢社会の地域づくり，2015.07.07
13. 川西市立桜ヶ丘小学校，買い物から交通と社会を考える，2015.06.30

14. 特定非営利活動法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾，交通政策とコミュニケーション，2015.05.30
15. 川西市公共交通基本計画策定委員会 副委員長，2013.08～
16. 西宮市都市交通会議 副会長，2013.02～
17. 明石市総合交通計画策定委員会副会長，2012.06～
18. 川西市中央北エコまち協議会 委員，2011.06～
19. 神戸市今後の都市空間のあり方検討会，2015.10～2016.03
20. 松山市銀天街 L 字地区再開発検討専門部会 副部会長，2015.10～2016.9
21. 四国地方整備局総合評価地域小委員会 委員，2015.07～
22. 松山市環境モデル都市まつやま運営委員会 委員，2014.11～

論文・研究発表：

1. 松村暢彦・石田佳弘：情動的メッセージによるモビリティ・マネジメントの態度変容プロセスに関する研究，土木学会論文集 D3，Vol.71，No.5，I_605-I_611，2015
2. 宮川愛由・東徹・大井貴之・水山光春・松村暢彦・藤井聡：モビリティ・マネジメント教育の継続的・広域的展開に向けた実践研究，土木学会論文集 H，Vol.71，No.1，70-77，2015/07
3. Kumiko TANIUCHI and Nobuhiko MATSUMURA: The study on the influence that memories of floods effect disaster prevention abilities of citizens- As a case study in Osaka city Nishiyodogawa Ward, which is a flood prone area-, Proceedings of International City Planning, 2015
4. 松村暢彦：地域の思い出の共有による地域再生にかける，月刊愛媛ジャーナル，pp.80-83，2016.2
5. うまくやれる工学のアクティブラーニング，OJE，大阪大学出版会，2015（分担執筆）
6. 緑の交通政策と市民参加，大阪大学出版会，2016（分担執筆）第6章（pp.143-158）
7. 防災まちづくり・くにづくり学習，悠光堂，2015（分担執筆）
8. モビリティをマネジメントする，学芸出版社，2015（分担執筆）
9. 中嶋清則・福井英奈子・松村暢彦・神田佑亮・土崎伸・岡本英晃：京都府における交通学習の取り組み状況～行政による地域の交通素材を活かした教育の支援～，第10回日本モビリティ・マネジメント会議，pp.39，2015
10. 松村暢彦・近藤慎：小学校の保護者活動が社会的ネットワークの形成と主観的幸福感に与える影響，土木計画学研究発表会・講演集，Vol.51，2015
11. 大石琢也・松村暢彦：内海本土近接型離島における空間印象評価構造に関する研究—松山市興居島をケーススタディとして—，平成27年度土木学会四国支部年次学術講演会，2015

羽鳥 剛史

社会貢献活動：

1. 松山市 フライブルグ市姉妹都市提携 25 周年記念環境交流事業協力
 - 環境教育授業（新玉小学校）：2014年10月20日
 - 愛媛大学ワークショップ：2014年10月21日
2. 松山市新玉小学校環境教育プログラム（「かしこい電気の使い方」大作戦，5年生，総合学習）

2014年6月－9月, 2015年6月－9月, 2016年1月－3月

3. 松山市新玉小学校環境教育プログラム「えきのおはなし」, 平成27年1月14日
4. 松山市新玉小学校サマーチャレンジ～ESD (Education for Sustainable Development) 【持続可能な開発のための教育】～, 環境～紙のリサイクルと有効利用～, 2015.7.23
5. 松山市 市駅前ワークショップ講演「駅前広場とシビックプライド」, 2016年2月10日
6. 松山市アーバンデザインセンター副センター長, 2014年11月1日～
7. 松山市アーバンデザインスクール運営委員会委員, 2014年11月1日～
8. 松山市中心市街地賑わい再生社会実験運営委員会委員長, 2014年11月1日～
9. 中央商店街周辺地区公民一体型空間形成検討専門部会 部会長, 2015.10.15-2017.3.31
10. 松山市立地適正化及び交通網形成検討協議会 鉄軌道検討部会員, 2015.7.13-2017.3.31
11. 松山市都市再生協議会 (中心市街地賑わい再生社会実験専門部会) 委員, 2015.8.20-2017.3.31
12. 大洲市公共施設等総合管理計画検討委員会, 2015.11.30-
13. 大洲市総合計画審議会 副委員長, 2015.7.15-
14. 大洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議副委員長, 2015.7.15-2016.3.31
15. 西予市旧宇和病院跡地利用検討委員長, 2015.6.1-
16. 南いよ風景かいどう協議会 会長, 2016.2.29-
17. 四国地方整備局総合評価委員会地域小委員会委員, 2015.7.8-2016.10.2
18. 国土技術研究センター道路空間委員会委員, 2014.2.5-2015.3.31.
19. 土木学会 技術価値の国際化小委員会 幹事長, 2015.7.30-2017.5.31
20. 土木学会「企画委員会」委員, 2014.
21. 土木計画学学術小委員会 委員, 2015.12.1-2018.11.30
22. 土木学会 100周年事業実行委員会 幹事, 2012.11.22-2015.6.12
23. 行動計量学会和文誌編集委員, 2015.5-2018.3.
24. 2015年6月 土木学会論文奨励賞 土木学会

論文・研究発表:

1. 窪田愛実, 羽鳥剛史: 地域の物語との協和性認知と住民協働事業への参画に関する研究, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), 71(5), I_359-I_366, 2015.
2. 羽鳥剛史, 片岡由香, 牧野太亮: 住民参加型・回覧型「思い出マップ」によるシビックプライド醸成策に関する研究: 四国中央市妻鳥町「棹の森」を対象とした取り組み事例, 都市計画論文集, Vol. 50, No. 3, pp.445-450, 2015.
3. 羽鳥剛史, 二神透: 災害想定に関わるメタ無知の実証的分析, 科学・技術研究 4(1), 77-82, 2015.
4. 松本和也, 羽鳥剛史, 竹村和久: 大衆による官僚制化の心理構造に関する実証的研究, 科学・技術研究 4(2), 165-172, 2015.
5. Hatori, T., Fujii, S., & Komatsu, Y. (2016) "Vulgarity of the mass man as a predictor of defection", *Social Behavior and Personality*, 44(1), 139-160."
6. 羽鳥剛史, 尾形愛実: モノの立場に立った物語的体験と選好形成. 日本行動計量学会大会発表論文抄録集 43, 40-41, 首都大学東京: 2015-09-01.

7. 羽鳥剛史: 公的討議の規範的評価の意義と課題ー討議ガバナンスの視点ー. 土木計画学研究・講演集, Vol. 52, CD-ROM. 秋田大学: 2015年11月22日
8. 羽鳥剛史, 尾形愛実: 自転車の立場に立った物語体的体験と愛着形成~映画『自転車の気持ち』作成の試み~. 土木計画学研究・講演集, Vol. 52, CD-ROM. 秋田大学: 2015年11月22日
9. 羽鳥剛史, 関克己, 小林潔司: 火山災害の危機管理と意思決定構造. 土木計画学研究・講演集, Vol. 52, CD-ROM. 秋田大学: 2015年11月22日
10. 片岡由香, 羽鳥剛史, 羽藤英二: アーバンデザインの展開におけるまちづくり実践学習プログラムの可能性-アーバンデザインスクールの取組みを事例に-. 土木計画学研究・講演集, Vol. 52, CD-ROM. 秋田大学: 2015年11月22日
11. 羽鳥剛史: まちづくり活動の物語的説明: 実践的意義と課題. 日本社会心理学会第56回大会, WS『社会的行動の「説明」について考える』. 東京女子大学: 2015, 11.1.
12. 片岡由香, 羽鳥剛史, 河内俊樹, 直井玲子: まちづくり実践学習プログラムの意義と課題-松山アーバンデザインスクールの取組み-. 地域デザイン学会 第4回全国大会, 横浜商科大学: 2015.9.5.
13. 入野和朗, 二宮生夫, 吉田広, 羽鳥剛史, 石川史太郎: 鎮守の森の保全活動を活用したまちづくり活動の立ち上げ~愛媛県四国中央市妻鳥の事例~. 産学連携学会第13回大会, 北見工業大学: 2015.6.26.
14. 羽鳥剛史, 片岡由香, 尾崎誠: 市民活動の持続可能性の規定要因に関する研究. 土木計画学研究・講演集, Vol. 51, CD-ROM. 九州大学: 2015年6月6日
15. 柳原捷吾, 羽鳥剛史: 環境配慮行動の促進に向けた相互学習型コミュニケーション施策の効果に関する実験研究. 平成25年度土木学会四国支部技術研究発表会. 香川大学: 2015.5.11.
16. 青山恒佳, 羽鳥剛史: 環内省機会の提供が保護価値の変容に及ぼす影響に関する研究. 平成25年度土木学会四国支部技術研究発表会. 香川大学: 2015.5.11.

片岡 由香

社会貢献活動:

1. 2015.10.30: 「松山アーバンデザインセンターの取組み」 関西大学団地再編プロジェクト レクチャーシリーズ
2. 2015.11.14: シンポジウム「公民学連携のまちづくりを考える」日本都市計画学会中国四国支部: 31名
3. 2016. 1.12: 「景観デザインの考え方について」 道後温泉椿の湯周辺ファサード整備勉強会
4. 2016. 2. 8: 「UDCMの1年を振り返って」 UDCMデザインマネジメントWS
5. 2016. 3.14: 「地方都市から学ぶ小さく強いまちの育て方」 都市デザイン環境会議関西ブロック 第2回都市環境デザインセミナー
6. 河川整備計画専門委員会 (愛媛県)
7. 松山市道後温泉活性化計画審議会委員 (松山市)
8. 愛媛県公共事業評価委員会 (愛媛県)
9. 松山市都市計画審議会委員 (松山市)
10. 中央商店街周辺地区公民一体型空間形成検討専門部会 (松山市)

11. 旧宇和病院跡地利用検討委員（西予市）

論文・研究発表：

1. 片岡由香，新階寛恭，松本啓治，羽藤英二：公学民協働による都市空間形成に関する研究－松山アーバンデザインセンターの取組みを事例として－：日本都市計画学会中国四国支部：都市計画研究講演集13：pp13-14：2015年4月
2. 片岡由香，羽鳥剛史，羽藤英二：松山アーバンデザインセンターの設立とその役割：土木計画学講演集：2015年6月
3. 片岡由香，羽鳥剛史，河内俊樹，直井玲子：まちづくり実践学習プログラムの意義と課題-松山アーバンデザインスクールの取組み-：地域デザイン学会：2015年9月
4. 片岡由香，羽鳥剛史，羽藤英二：アーバンデザインの展開におけるまちづくり実践学習プログラムの可能性：土木計画学講演集：2015年11月
5. 片岡由香，新階寛恭，松本啓治，羽藤英二：公学民協働による都市空間形成に関する研究－松山アーバンデザインセンターの取組みを事例として－：日本都市計画学会中国四国支部：広島：2015年4月
6. 片岡由香，羽鳥剛史，羽藤英二：松山アーバンデザインセンターの設立とその役割：土木学会：福岡：2015年6月
7. 片岡由香，羽鳥剛史，河内俊樹，直井玲子：まちづくり実践学習プログラムの意義と課題-松山アーバンデザインスクールの取組み-：地域デザイン学会：横浜：2015年9月
8. 片岡由香，羽鳥剛史，羽藤英二：アーバンデザインの展開におけるまちづくり実践学習プログラムの可能性：土木学会：秋田：2015年11月

5. 管理・運営

5.1 運営委員会議事録

5.1.1 平成27年度 第1回 防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成27年5月11日（月）9：00～9：45

場 所：社会連携推進機構2階研修室

出席者：矢田部センター長、吉井副センター長、竹田副センター長、曲田教授、松尾教授、榊原教授（代理 二神准教授）、瀬野社会連携支援部長

陪席者：和田課長、池内副課長、竹村TL、大野、泉

審議事項：

1. 客員教授等の称号付与について（新規）

資料1に基づき、矢田部センター長から愛媛県土木部長の田村氏が定年退職となったことに伴い、後任の頼木清隆氏を客員教授として任用したいとの説明があり、了承された。愛媛県土木部長は、愛媛県内の社会基盤整備の中核的役割を担っており、特に本学が実施する社会基盤エキスパート養成講座実施の指導・助言や南海トラフ巨大地震への対応等の各種活動や研究に是非活かしてほしいとの説明があった。

2. ネパール地震被害調査報告会(速報)

資料2に基づき、矢田部センター長からネパール地震被害調査団の派遣について事後報告があった。また調査をした報告を、5月18日（月）に速報会を実施したいとの説明があり、了承された。また、今後のネパールへの地震復興調査研究寄附金の協力依頼を防災情報研究センター関係団体等に呼びかけをしたいとの説明があり、了承された。なお、情報の発信としては防災情報研究センターホームページ等で行う予定である。

3. 第1回愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会開催について

資料3に基づき、竹田副センター長から5月20日（水）に第1回愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会を開催したいとの説明があり、了承された。また、平成27年度の愛媛社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座の実施スケジュール等の説明があり、特に四国4県の取組として拡充を図りたいとの説明があった。

4. 平成26年度活動報告会の開催について

資料4に基づき、矢田部センター長から5月18日（月）に平成26年度活動報告会を開催したいとの説明があり、了承された。

5. 防災キャラバンについて

資料5に基づき、二神准教授から最後の防災キャラバンを6月7日（日）砥部町で開催したいとの説明があり、了承された。今後は、COCと協力して地域の防災力を向上するプログラムを構築するとともに、情報を愛媛大学防災情報研究センターのホームページで発信していくこととした。

報告事項：

1. 共通教育発展科目「環境防災学」について

資料6に基づき、二神准教授から実践的學生防災リーダー育成プログラムの一環として今年度から全学共通科目として「環境防災学」を9月25日～30日に開催したいと報告があった。またミニガイダンスを数回実施し、學生に周知する予定である。

2. アーバンデザイン研究部門の報告について

資料7に基づき、曲田教授から平成27年度松山アーバンデザインセンター年間スケジュールの報告があった。

5.1.2 平成27年度 第2回 防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時：平成27年7月15日（水）

場 所：（持ち回り）

出席者：矢田部センター長、吉井副センター長、竹田副センター長、相引教授、松尾教授、榊原教授、曲田教授、瀬野社会連携支援部長

審議事項：

1. 愛媛大学防災情報研究センター特定職員（教員）の選考について

文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」地域プロジェクトとして本学が採択されることとなり、平成27年9月1日付けで防災情報研究センター教授（特定教員）として、山下祐一氏を任用することとした。

また、任期は、平成28年2月29日までとする。

なお、持ち回り運営委員会として、各委員に上記審議事項を諮った結果、全員異議なく、了承された。

5.1.3 平成27年度 第3回 防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時：平成27年12月8日（火）

場 所：（持ち回り）

出席者：矢田部センター長、吉井副センター長、竹田副センター長、相引教授、松尾教授、曲田教授、瀬野社会連携支援部長

審議事項：

1. 愛媛大学防災情報研究センター客員研究員の受入について

アーバンデザイン研究部門における市街地再開発事業及び研究を行うために社会実験の調査に関する研究を行うために客員研究員として西村正氏を客員研究員として受け入れることとした。

また、受入期間は、社会連携推進会議承認日～平成29年3月31日の予定とする。

なお、持ち回り運営委員会として、各委員に上記審議事項を諮った結果、全員異議なく、了承された。

5.1.4 平成27年度 第4回 防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成28年1月19日（火）11：00～12：00

場 所：社会連携推進機構2階研修室

出席者：矢田部センター長、吉井副センター長、竹田副センター長、曲田副センター長、相引教授、松尾教授、瀬野社会連携支援部長

陪席者：二神准教授、山下教授（特定教員）、竹村TL、大野、泉

審議事項：

1. 特定職員（教員）の退職について

資料1に基づき、矢田部センター長から文部科学省からの受託事業「社会基盤メンテナンスエキスパート」で採用した山下教授の任期について、平成29年2月末日で任期満了との説明があり、了承された。なお、報告書をホームページに掲載することの指示が山下教授にあった。

2. 副センター長の任期更新について

資料2に基づき、矢田部センター長から副センター長として職務付加をお願いしている、吉井教授に平成30年3月31日まで副センター長としての任期を更新したいとの説明があり、了承された。

3. 特定職員（教員）の採用について

資料3に基づき、矢田部センター長からアーバンデザイン研究部門に、片岡助教の後任として、梶原氏を採用したいとの説明があり、了承された。なお、任期は平成28年4月1日から平成29年3月31日まで。社会連携推進会議の議を経て、2月最初に開催される人事委員会で承認を得れば、採用の手続きを行う予定である。

4. 特定職員（教員）の任期更新について

資料4に基づき、矢田部センター長からアーバンデザイン研究部門で活動している、部門長の曲田教授と松本教授2名の任期について、平成28年4月1日から平成29年3月31日の1年間、任期を更新したいとの説明があり、了承された。

5. 兼任教員の任期更新について

資料5に基づき、矢田部センター長から兼任教員の任期は2年間であり、今年度で任期満了となる教員について、もう2年間任期を更新したいとの説明があり、了承された。

6. 兼任教員の採用について

資料6に基づき、矢田部センター長からアーバンデザイン研究部門で活動している片岡助教は、来年度から社会共創学部採用される予定であることから、兼任教員としてアーバンデザイン研究部門のアーバンデザインスクールを担当していただく予定であるとの説明があり、了承された。

7. 客員教授等の称号付与（更新）について

資料7に基づき、矢田部センター長から平成28年度の客員教授5名、客員准教授1名の活動実績の説明があり、称号付与について、了承された。

8. 客員研究員の任期更新について

資料8に基づき、矢田部センター長から今年度で任期満了となる客員研究員3名について、平成28年4月1日から平成30年3月31日の2年間、任期を更新したいとの説明があり、了承された。

9. 平成28年度愛媛大学公開講座「防災士養成講座」について

資料9に基づき、二神准教授から平成28年度土日型2回、平日型2回の防災士養成講座を松山市消防局の協力の下、実施していくとの説明があり、了承された。

10. 平成27年度NEXCOとの連携会議について

資料10に基づき、矢田部センター長から今年度は平成28年3月10日に開催、併せて報告者は矢田部センター長が決めていきたいとの説明があり、了承された。

11. 平成27年度外部評価委員会について

資料11に基づき、矢田部センター長から今年度から年に1回実施することとなった外部評価委員会を3月下旬に実施することで了承された。なお、外部評価委員会委員の任期については、本人の意向を確認して、外部評価委員会で決定していくとの説明があった。

報告事項：

1. 防災セミナー in 四国中央市の開催について

資料12に基づき、二神准教授から自主防災会、企業、学校、地域の横の連携を深め、減災に向けた意識を高める目的で、まず四国中央市で平成27年12月26日に開催し、120名を超える参加があったとの報告があった。

2. 愛媛大学に防災協力事業所表示証が交付

資料13に基づき、矢田部センター長から大学生の防災への取組が評価され、今年度松山西警察署とともに、防災協力事業所表示証交付式が松山市で実施されたとの報告があった。

3. 平成27年度社会基盤メンテナンスエキスパート実施報告

資料14に基づき、山下教授から今年度実施した社会基盤メンテナンスエキスパートの実施報告があった。

4. 松山アーバンデザイン研究センター活動報告について

資料15に基づき、曲田教授から平成28年2月20日に松山アーバンデザインセンター、みんなのひろばフォーラムを実施したいとの説明があった。

5. その他

竹田副センター長からNHKと共催で四国防災シンポジウムを開催すること、併せて3.11の復興・復旧の状況を記録しておきたいとの報告があった。

5.2 外部評価委員会議事録

5.2.1 平成27年度防災情報研究センター外部評価委員会

日時：平成28年3月28日（月）11：00～12：00

場所：愛媛大学社会連携推進機構2階研修室

委員出席者：

南海放送（株）文化営業部長

白石 享三

放送大学愛媛学習センター所長

森 孝明

陪席者：

矢田部センター長，竹田副センター長，相引教授，曲田教授，松尾教授，

竹村TL，大野，泉

矢田部センター長のあいさつの後、愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会要領第4条第1項に基づき、森孝明放送大学愛媛学習センター長を委員長（議長）に選出された。

審議事項

議題1. センター活動の概要報告

矢田部防災情報研究センター長から資料3及び4に基づき、平成27年度の活動報告等があった。

議題2. 受託研究・共同研究に対する概要

矢田部防災情報研究センター長等から資料5に基づき、受託研究、共同研究10件の説明があった。全委員から特段の指摘はなく、防災情報研究センターとして、ふさわしい研究であるとの評価をいただいた。

議題 3. センター活動への助言について

白石委員から防災情報研究センターは、防災に限らず地域における多岐にわたる教育を実践していると評価したとの報告があった。また矢田部センター長から地域機能の強化を図るべきアーバンデザイン研究部門においては、今後の役割としてシンクタンクの役割を目指していきたい。松山市（寄附講座）との関係もあるが、アーバンデザイン研究センターが提言し、松山市が実施していく構図がふさわしい。今後、学内外への情報発信の方法などを検討しなければならないが、学生や社会人の学びの場になっていかななくてはならないと説明した。JR松山駅周辺の再開発については、国、愛媛県、松山市で対応しているが、アーバンデザイン研究センターにおいても情報収集をしているところであるとの曲田教授から補足説明があった。

また森委員長から学生防災リーダーズの今後の活動について質問があり、矢田部センター長から今年度は試行的に夏期集中科目として卒業要件単位とならない単位として実施し、103名が受講、日本防災士機構が発行する防災士に全員が合格した。来年度以降は、社会共創学部においては必須科目として、他学部等では自由科目として、また松山大学、聖カタリナ大学、東雲大学から合計200名を受講させ、希望者は次年度以降地域で活動するカリキュラムに参加させていきたいとの回答を行った。

四国全域を比較した場合、愛媛県の行政、特に松山市に危機管理の意識が少ない、避難訓練や愛媛大学のBCPにしても参加しているだけで、緊張感が足りないとの指摘があり、確かに高知県や徳島県は「命」の問題に直結していることもあり、意識が高い。しかし愛媛県南予地方においては南海トラフ巨大地震への対応が充実してきているところであるとの説明があった。

最後に矢田部センター長から①防災士養成講座を通じた、防災士のネットワーク作り②愛媛地域防災力研究連携協議会を通じた行政との連携③学生防災リーダーズにおける防災教育の推進④愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会における社会基盤メンテナンスエキスパートを中心とした、社会基盤人材育成の実施を中心に、来年度以降も発展的に防災情報研究センターが実施していきたいとの抱負を述べ、外部評価委員会は終了した。

6. 規程等

6.1 愛媛大学防災情報研究センター規則

〔平成18年4月1日
規則第 64号〕

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同施設として、自然科学と防災技術の融合により自然災害の実態を解明し、防災・減災のための新たな学際分野を創出し、もって地域の人材育成を含めた地域防災の拠点としてアジア及び地域社会に貢献することを目的とする。

(研究部門等)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 災害救急医療・ケア研究部門
- (2) 地域防災システム研究部門
- (3) 社会基盤整備部門
- (4) アジア・地域防災情報ネットワーク部門
- (5) 東南海・南海地震研究部門

2 前条の目的を達成するため、必要に応じて、センターに地域サテライトを置くことができる。

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 寄附研究部門教員
- (5) 兼任教員
- (6) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

2 第2条の目的を達成するため、必要に応じて特定領域の学識を有する専任教員を置くことができる。

(管理機関)

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、国立大学法人愛媛大学社会連携推進機構管理委員会（以下「管理委員会」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

(緊急対策委員会)

第7条 センターに、緊急の防災対策を検討するために緊急対策委員会を置くことができる。

(センター長)

第8条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授のうちから管理委員会が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第9条 副センター長候補者は、本学の専任の教授のうちから、センター長が当該教授の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。

2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された副センター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（部門長）

第10条 部門長は、当該部門の寄附研究部門教員又は兼任教員のうちから、センター長が委嘱する。

2 部門長の委嘱期間は、センター長が定める。ただし、委嘱期間の末日は、当該部門長を委嘱するセンター長の任期の末日を超えないものとする。

（寄附研究部門教員）

第11条 寄附研究部門教員は、管理委員会が推薦し、学長が選考する。

（兼任教員）

第12条 兼任教員は、本学の専任教員のうちからセンター長の推薦により、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された兼任教員の任期は、前任者の残任期間とする。

（職務）

第13条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長から指示された具体的な事項を行う。

3 部門長は、当該部門の業務を処理する。

4 兼任教員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事する。

5 センター職員は、センターの業務に従事する。

（協力教員）

第14条 センターに、協力教員を置くことができる。

2 協力教員は、センター長があらかじめ定めた期間、センターの活動に参加することができる。

3 協力教員は、本学の専任教員のうちから、センター長が委嘱する。

（客員教授等）

第15条 センターに、客員教授等を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、愛媛大学客員教授等選考基準の定めるところによる。

（客員研究員）

第16条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

（事務）

第17条 センターに関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

（雑則）

第18条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年10月14日から施行し、平成22年10月1日から適用する。

6.2 愛媛大学防災情報研究センター運営委員会規程

平成18年4月1日
規則第 65 号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学防災情報研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本事項に関すること。
- (2) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 社会連携支援部長
- (5) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門部会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

6.3 愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程

平成 18 年 11 月 10 日
社会連携推進機構管理委員会

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）における外部評価（以下「評価」という。）の実施に関する基本的事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 評価は、愛媛大学以外の機関等から申込のあった共同研究及び受託研究が、愛媛大学において受け入れる研究としてふさわしいものであるかについて客観的な立場で検証し、その評価及び改善への助言等を行うことにより、共同研究及び受託研究の業務の適正化を図り、もって、センターの円滑な運営に資するものとする。

(評価審査)

第3条 評価に係る審査は、法令、学内諸規則及び社会良識に照らして厳正中立に行わなければならない。

2 評価審査の結果には、共同研究及び受託研究を実施する上での問題点の有無等について、その具体的な判断理由を明示するものとする。

(審査機関)

第4条 前条の審査を行うために、センターに愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）を置く。

2 外部評価委員会に関する事項は、別に定める。

(審査の時期)

第5条 審査は、原則として、年度ごとの定期審査とする。

2 外部評価委員会への審査の要請は、センター長が行う。

(審査結果の効力)

第6条 センター長は、外部評価委員会の定期審査による評価及び改善への助言等を十分に尊重し、共同研究及び受託研究の実施にあたらなければならない。

(事務)

第7条 センターの外部評価に関する事務は、社会連携支援部社会連携課が所掌する。

附 則

この規程は、平成 18 年 11 月 10 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

6.4 愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会要項

平成 18 年 11 月 10 日
社会連携推進機構管理委員会

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程第4条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 共同研究及び受託研究のテーマ又は内容が、学術的又は社会貢献としての価値を損なうものでないか。
- (2) 共同研究又は受託研究を実施する者が、社会規範を逸脱したと思われる行為を行っていないか。
- (3) 前各号のほか、愛媛大学（以下「本学」という。）が実施するにふさわしくない事情が認められないか。

(組織)

第3条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる本学外の委員をもって組織する。

- (1) 愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の学術分野に関連のある有識者 2人
- (2) 民間機関の有識者 2人
- (3) その他社会連携推進機構長が必要と認めた者

2 前項第2号の委員は、同一の機関から選出することができない。

3 第1項の委員は、社会連携推進機構長が推薦し、学長が任命する。

4 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときは直ちにこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 外部評価委員会に委員長を置き、委員長は、委員の互選とする。

2 委員長は、センター長の要請に基づき外部評価委員会を開催し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 外部評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(審査結果の報告)

第7条 委員長は、外部評価委員会における評価の審査結果を、速やかにセンター長に報告しなければならない。

(事務)

第8条 外部評価委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか、外部評価委員会の審査に関し必要な事項は、外部評価委員会が定める。

附 則

1 この要項は、平成18年11月10日から施行する。

2 この要項施行後、最初に任命される第3条第1項各号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。